



# Web Fairy Paradise

改訂：3/7 AM9:45

**第92号**

## 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第79回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ 第80回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第98回推理将棋出題
- ・ 第99回推理将棋出題
- ・ 強欲な世界パート5

## 結果発表

- ・ 第78回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第97回推理将棋出題
- ・ Fairy of the Forest #46
- ・ 強欲な世界パート4

## 読み物

- ・ リパブリカン詰の紹介(変寝夢)



**2016/2**

## はじめに



### 結婚式

私事ですがお許し下さい。私の娘安奈が今月の14日(バレンタインデー)に横浜の伊勢山ヒルズで結婚式を挙げました。2年前に息子が結婚しましたが式はしなかったので、私にとっては多分最後のビッグイベントということになります。

式での私の大役はもちろん、花嫁のバージンロードでのエスコートです。開始前に段取りを係りの人から教えて頂きましたが、やはり緊張で何をしたらいいのか分からなくなりあたふたしながら何とかこなしたという次第。

式が始まる前、関東地方春の嵐と言うほどの風と雨でどうなることかと思ったのですが、披露宴の半ばを過ぎた頃より太陽が見えるようになり一安心。仕事の関係でその日に新居浜に帰らなければいけなかったので心配した飛行機も無事飛んでとりあえずは何事もなく終わりました。

とここまでは良かったのですが、帰った次の日に、私が風邪でダウン。体調の関係で結婚式に出席できなかつた義母の体調が悪くなり緊急入院・・・なんだか良いこと悪いことがいっぺんにきた感じとなりました。

今年はいろいろイベントがあるのでちょっと心配になってきました。

今月のWFPの読み物は変寝夢さんの「リパブリカン詰の紹介」です。またまた登場の新ルール。ついていくのも大変と思いますが、ものすごく分かりやすく書かれていますので読んで見て下さい。

## 【募集】

## は

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第92号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

#### 占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

## 第79回WFP作品展(再掲)及び 第80回WFP作品展 担当：神無七郎

「めっちゃシンプルな入玉型だな？  
攻め駒は飛車、銀、と金だけで、持ち駒は  
角、金か……」

今月の詰パラ読者サロンに、探偵小説に出てくる詰将棋の話題がありました。小説の中では図面が出ていないので、文章から図を推理したり、文章に合わせた作品を作ったりする楽しみ方もできるというお話です。そこで本欄でも小説に出てきた詰将棋を紹介し、読者の皆さんに推理して貰いたいと思います。題材は白鳥士郎「りゅうおうのおしごと！」2巻。この小説はいわゆるライトノベルですが、将棋に関しては本格的です。往々にして、小説に将棋（まれに詰将棋）が登場すると、素人っぽいお粗末な描写のせいで読む気を無くすことが多いのですが、この作品は大丈夫でした。

この小説の最初の方で、主人公が弟子と詰将棋の解図競争をする場面があります。冒頭に挙げたのがそのセリフの一部。勘の良い方はもうこの時点でどんな作品か見当がつくかもしれませんが、これだけだと推測の域を出ないですね。続きを読んでみましょう。

「わかった！ 3八銀から銀を消して玉の  
後ろから金を打ち、それから9筋に角を打  
ってそれを角合いで防いでから2八玉と  
金を取って以下3八馬——」  
「それ打ち歩です」

ここでかなりの方が分かったのではないで  
しょうか。そう、あの中編の名作です。念のため  
次のセリフで答え合わせをしましょう。

「できました！ 3八馬じゃなくて4九馬  
として2八馬までの二三手詰めですっ!!」

ここまで来ても何の作品が分からない、とい  
う方は本誌読者にはいないと思いますが（いま  
せんよね？）、万一分からないようでしたら「塚  
田賞 1976」で検索してみてください。

この小説で出てくる詰将棋は有名な作品だ  
けではありません。（小説内ではこちらの方が先  
に出てきます。）

次の問題は玉を中心に飛車と角が『／』の  
形に並んでる曲詰。

実戦では絶対に現れない局面だが——  
「解けました！ 5六金から2二竜まで十  
九手で詰みっ！ です!!」

実は筆者もこれが誰の作か分からず、ネット  
で調べる羽目になりました。もし記憶だけで作  
者と図面を答えられる人がいたとしたら、相当  
なマニアでしょう。皆さんも作者が分かったら、  
アルキメデスのあの有名な言葉を叫びたくな  
ると思います。

この小説は関西の若手棋士グループ「西遊棋」  
が監修しているそうなので、登場する詰将棋も  
「西遊棋」の誰かが選んだ可能性が高そうです。  
ちなみに入玉形の詰将棋は、小説の終盤に出  
てくる対局の伏線になっており、入玉の頻度が少  
ないことや、入玉になると詰みにくいことの説  
明も兼ねています。小説の作者がストーリー上  
必要な条件を提示し、それに合う詰将棋を監  
修者が選んだという選題過程が想像できますね。  
ライトノベルは読者にとっては「娯楽」ですが、  
作り手にとっては「仕事」であり、多くの人々  
の知識や労力が注ぎ込まれています。これらの  
作品の選題者が誰なのかは分かりませんが、誰  
だったにしろ「かんしゅうのおしごと！」ご苦  
労様と言いたいです。

さて、雑談はこれくらいにして筆者は「たん  
とうのおしごと！」に戻ることにしましょう。  
今回のWFP作品展は再掲となる第79回分と新  
規出題の第80回分です。今回は中編・長編がな  
く、難度もそれほど高くないと思います（あく  
まで担当の主観）。

また、今回中立駒のルール説明に**7)**を追加し  
ました。これは「中立駒による自玉への王手」  
が反則であることを明示するためのものです。  
今までも結果稿では折に触れて説明してきたつ  
もりですが（**59-3** や **61-2** など）、「中立駒は現  
手番側の駒を取れない」という性質と矛盾する  
ように見えるので、項を追加することにしました。  
特に双玉作品ではこれが問題になり易いので改  
めて注意喚起しておきます。「中立駒は双方にと  
って敵駒」と覚えておくと多分間違いを防ぎや  
すいと思います。

話は変わりますが次回はいよいよ第81回。

将棋盤の升目と同じ節目の数ですね。基本的にはいつも通りの作品展を行うつもりですが、「81」にちなんだ作品の場合は投稿にその旨を添えてください。もし「81」にちなんだ作品が複数送られて来たら、作品展内で小特集を組みたいと思います。81手詰とか、9×9すべてを使った作など、何でも良いので、記念の作品をお待ちしています。

#### 〔第79回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第79回の出題は全12題。内訳は神無太郎氏4題、久保紀貴氏1題、変寝夢氏7題です。出題は例によって投稿順。以下の説明を読んで、易しそうなもの、あるいは自分の好みに合いそうなものから解図を始めると良いと思います。

**79-1～79-4** は神無太郎氏の協力自玉スタイルメイト。「第43回神無一族の氾濫」で出すには難し過ぎると判断された作品がこちらでお目見えとなりました。使われているフェアリー駒は **Grasshopper** (G)。受方の持駒は標準の残り駒すべてとG5枚です。Gの枚数が5枚というのは10手で合駒として登場できる上限に合わせたもので、すべて使うとは限りません。

**79-5** は本作品展では初登場となる久保紀貴氏の作品。氏が **Andernach** に興味を持ったのはつい最近のことだそうですが、作者の実力はこの作品にも充分反映されています。**Andernach** は駒を取る時に相手の駒になる…つまり非常に王手が掛けにくいルールですが、その特性をこの作品でどう利用しているか注目してください。

**79-6～79-12** は変寝夢氏の作品。いろいろなルールの作品が並んでいるので、ルール説明や以下の補足説明をよくお読みください。

まず、**79-6** は **Locust** (蝗) を使った協力自玉スタイルメイト。**Locust** は **Grasshopper** と似ていますが、動きは異なるので **79-1～79-4** と混同しないよう注意してください。**Locust** はジャンプ台となった駒を取ることで、ジャンプ先が埋まっていると跳べないことの2点が大きな特徴で、**Grasshopper** と大きく異なる手順が味わえるはずですよ。

**79-7** は持駒に普通の角と中立駒の角が1枚ずつあります。手数が4手ですから、2枚とも打つしかないのですが、さてどちらをどこに打つのでしょうか？

**79-8** は将棋盤上のチェスプロブレム。**Pawn** の基本的な動き方(取らないときは前に一つ、取る時は斜め前に一つ)や、相手陣最上段(三

段目ではありません)で成るという設定、成る時は4種類(QRSB)の成駒を選べるという設定もそのまま持ってきます。ダブルステップやアンパッサンの設定がどうなっているか不明ですが、とりあえず本局には関係ありません。また、攻方に王手義務がないのも **Helpmate** そのままです。複数解を求める問題形式もチェスプロブレム風。少し違うのは、攻方から指し始めることと、取った駒が持駒になること。また、手数の数え方も詰将棋流です。チェスプロブレム風だからといって受先で6手指してはいけません。易しいので4解すべて求めてください。

**79-9～79-11** は指定手数逆算して1手詰の形を作れという「レトロ」の作品。**79-9** と **79-10** は攻方に王手義務がない前提で逆算します。ただし、受方の持駒が制限されているので、逆算の選択肢もある程度制限されています。もちろん、逆算手順に王手放置などの反則があってははいけません。**79-11** は攻方に王手義務がある代わりに、受方持駒は残り全部です。駒台から何を持ってくるかが重要ですね。

**79-12** は攻方だけが6手連続で指して詰めよという問題。途中で(詰まない時に)王手を掛けてはいけません。**Rose** (薔) という強力な駒が使われているのでどうやっても詰みそうですが、厄介なのはPWCという条件。PWCでは攻方の駒が増えないわけですから、**Rose** 1枚で詰めねばなりません。やみくもに駒を動かす前に、きちんと作戦を立てましょう。

#### 〔第80回作品展各題への補足説明〕

第80回の出題は全部で10題。内訳は神無太郎氏2題、占魚亭氏1題、変寝夢氏6題、真T氏1題です。出題の並びは作稿の都合により投稿順です。難易度は関係ありません。好きなものから順番にどうぞ。

**80-1** 及び **80-2** は神無太郎氏の協力自玉詰。前回と同じく **Grasshopper** (G) が使われていますが、多分前回より易しいと思います。受方の持駒は標準の残り駒すべてとG4枚です。この枚数は8手で合駒として登場できる上限に合わせたもので、すべて使うとは限りません。

**80-3** は占魚亭氏の **Imitator** を使った作品。この駒は他の駒の真似をするだけでなく、自分が動ける範囲に合わせて他の駒の動きを制限する働きを持っています。これは王手の判定にも適用されるので、初形で王手は掛かっていません。

**80-4～80-9** は変寝夢氏による様々なルール

の作品群。個々のルールは以前にもこの作品展で登場したことがあるので、不明点などがあったらバックナンバーも参考にしてください。

**80-4** 及び **80-5** は前回も登場した「レトロ」の作品。どちらも指定手数逆算して1手詰の形を作れという問題ですが、**80-4** では攻方王手義務がある前提での逆算、**80-5** では攻方王手義務がない前提での逆算が要求されています。その代わり **80-5** には受方持駒制限があり、逆算の選択肢はある程度抑えられています。**80-4** には **Queen (Q)** も使われていますが、飛や角でない理由は解けば自然に分かると思います。

**80-6**～**80-8** は中立駒を使った作品。**80-6** では中立駒の香が登場しますが、中立駒には「行き所のない駒」の規定は適用しないので、打ち場所を気にする必要はありません。また、受け方持駒制限にも留意してください。**80-7** には中立駒の他に **Knight (騎)** も使われています。余裕があればこの駒がどんな余詰を防いでいるかも考えてみてください。**80-8** は玉が中立駒になっています。中立玉に対する王手の判定は、自分の着手終了後、相手の着手前に、中立玉を相手の玉とみなして王手になっているかどうかで判断します。「非王手」や「王手放置」にはくれぐれも気を付けてください。ルールは「協力自玉詰」なので、受方が指し終わった時点で中立玉が自玉だと見なしたときに詰んでいる形を目指すこととなります。この辺はややこしいですが、中立玉の登場する過去の作品 (**69-6**、**69-7**) なども参考にして解いてください。

**80-9** は(4,5)-Leaper という原位置から4対5に跳ぶ八方桂を使った作品です。跳ねる距離が大きいので、八方桂なのに9×9の将棋盤ではいつも2箇所しか行先がありません。

少し調べたのですが、この駒には名前が付いていないようなので出題図では「45」と表記しました。解答のときは適当な表記で構いません。この作品では **Lion (鬣)** も使われていますが、初形では動けないので、しばらくは「45」を動かすしかなさそうです。「連続詰」は攻方のみが指定手数指して詰ませるルール。詰むとき以外に王手を掛けてはいけません。詰型を想定してから解図するのがお勧めです。

**80-10** は久々の本誌登場となる真T氏の作品です。本局は **Grasshopper** 入門編的な内容ですが、投稿順に並べているためこの位置になりました。今回の作品展では最も易しい部類に入ると思います。

## 解答要項

第79回分解答締切:2016年3月15日(火)

第80回分解答締切:2016年4月15日(金)

宛先:janacek789@ybb.ne.jp (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

## 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じjanacek789@ybb.ne.jpへ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

## ルール説明

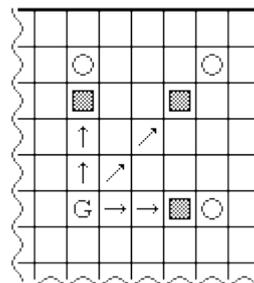
※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfpr2015.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっていないが合法手のない状態)にする。

### 【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(○がGの利き)

### 【Andernach】

駒取りを行った駒(玉を除く)は、その場で相手の駒となる。

(補足)

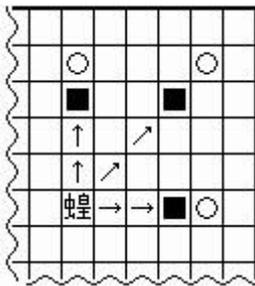
- 1) 取ると二歩になる場合、相手の駒にならない
- 2) 駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3) 駒取りの場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)

### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

### 【Locust】(蝗)

フェアリーチェスの **Locust** (蝗)。**Queen** の利きの方向にある敵駒を跳び越え、その1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。  
■は敵駒。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていると跳べない。)

### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

### 【中立駒】(「 $\text{♞}$ 」あるいは「n駒」)

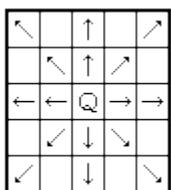
どちらの手番でも動かせる駒。  
横向きの字か横に n を付加して表記。

(補足)

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。  
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」参照。

### 【Queen】(Q)

チェスのクイーン。  
飛車と角を合わせた性能を持つ。

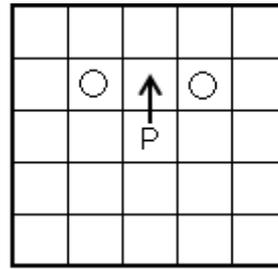


(矢印がQの走る方向)

### 【Pawn】(P)

チェスの Pawn。駒を取らない時は一つ前に、駒を取る時は斜め前に進む。

敵陣最上段で強制的に成り、成った後の駒は Q (飛+角)、R (飛)、B (角)、S (騎) の4種から選択できる。



(○が駒取りの利き。駒を取らないときは矢印方向に進む。)

### 【非連続王手】

攻方に王手の義務がない。  
(王手をして良い)

### 【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。  
(補足)

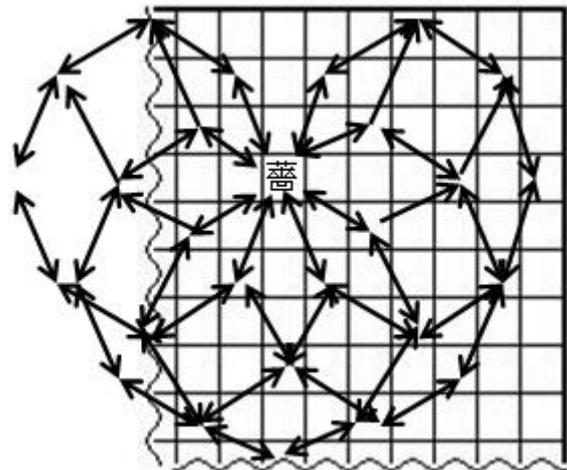
- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する

### 【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

### 【Rose】(薔)

フェアリーチェスの **Rose**。  
円形に進むナイトライダー。途中に駒があったり盤をはみ出したりするとそこから先に行けない。



### 【連続詰】

攻方が連続して指して最短手数で受方の玉を詰める。ただし、詰むとき以外に王手を掛けてはいけない。

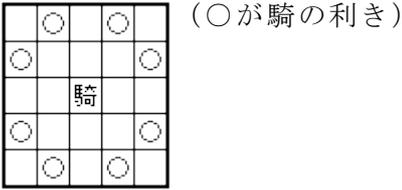
### 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この **Imitator** が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たり

するような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

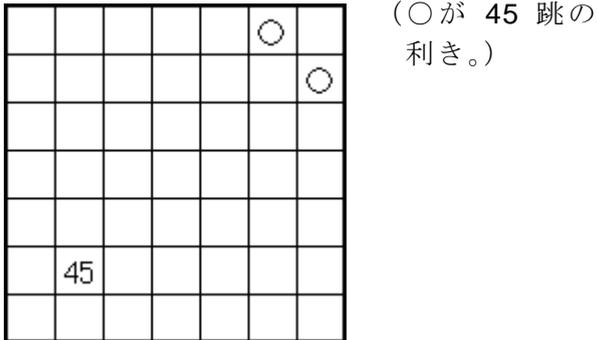
**【Knight】(騎)**

チェスのナイト。八方桂。



**【45跳】(45)**

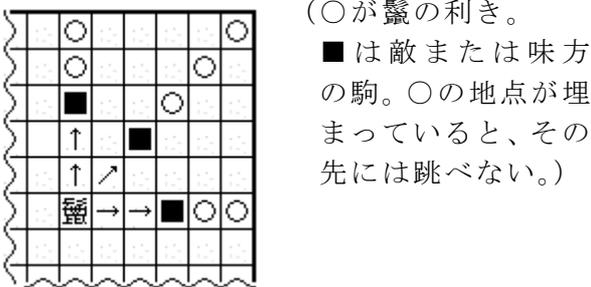
(4,5)-leaper、即ち4対5の位置に跳ぶ八方桂。



**【Lion】(鬣)**

フェアリーチェスの Lion。

クイーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。

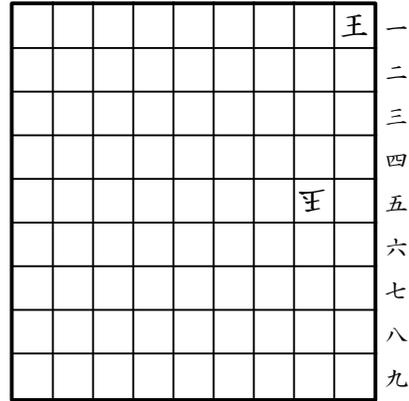


《第79回 WFP 作品展》(再掲)

解答締切：2016年3月15日(火)

■ 79-1 神無太郎氏作

協力自玉ステイルメイト 10手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



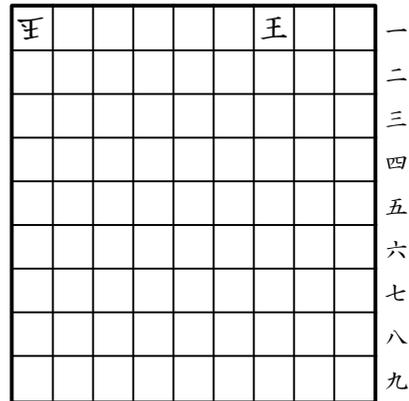
攻方持駒 香G4

受方持駒 残り全部+G5

※G:Grasshopper

■ 79-2 神無太郎氏作

協力自玉ステイルメイト 10手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



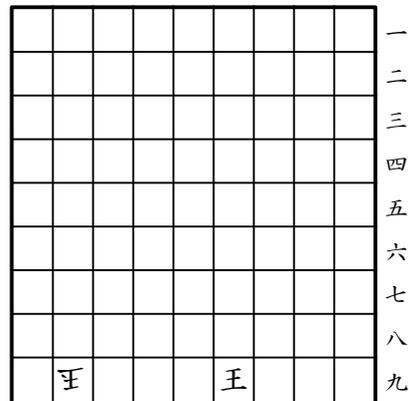
攻方持駒 角G4

受方持駒 残り全部+G5

※G:Grasshopper

■ 79-3 神無太郎氏作

協力自玉ステイルメイト 10手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 飛G4

受方持駒 残り全部+G5

※G:Grasshopper

■ 79-4 神無太郎氏作  
協力自玉スタイルメイト 10手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
							王		九

攻方持駒 飛G4  
受方持駒 残り全部+G5  
※G:Grasshopper

■ 79-5 久保紀貴作  
Andernach協力詰 11手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								飛	一
								銀	二
									三
									四
								王	五
									六
									七
									八
								香	九

持駒 なし

■ 79-6 変寝夢作  
協力自玉スタイルメイト 8手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
					飛				六
					王	金			七
									八
					王				九

持駒 銀2  
※蝗:Locust

■ 79-7 変寝夢作  
協力自玉詰 4手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
							王		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角n角  
※n角:中立駒の角

■ 79-8 変寝夢作  
非連続王手協力詰 3手 ※4解  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
		P		王					二
									三
		王		王					四
									五
									六
									七
									八
									九

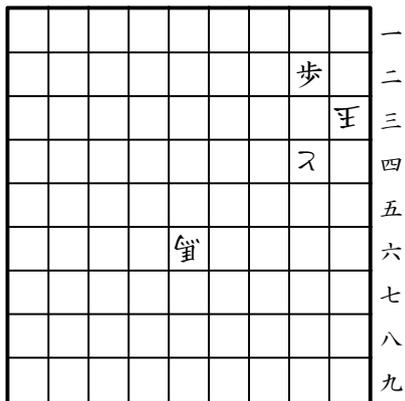
持駒 なし  
※P:Pawn、Q:Queen

■ 79-9 変寝夢作  
非連続王手レトロ協力詰 -6+1手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							王		四
						桂			五
									六
									七
								馬	八
									九

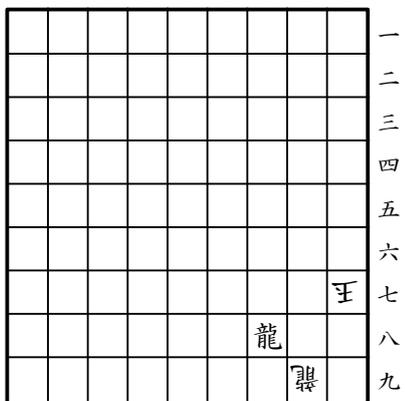
攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

■ 79-10 変寝夢作  
非連続王手レトロ協力詰 -6+1手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



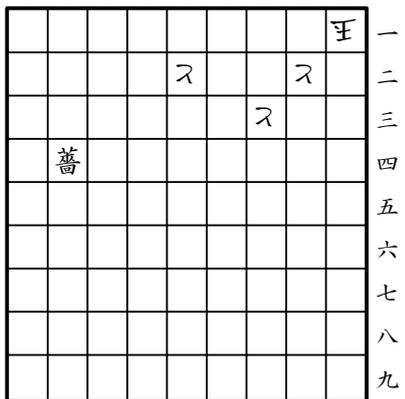
攻方持駒 銀  
受方持駒 なし

■ 79-11 変寝夢作  
レトロ協力詰 -2+1手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

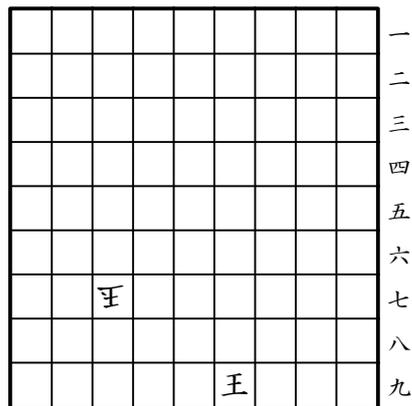
■ 79-12 変寝夢作  
PWC連続詰 6手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし  
※薔:Rose (円形ナイトライダー)

《第80回 WFP 作品展》  
解答締切：2016年4月15日(金)

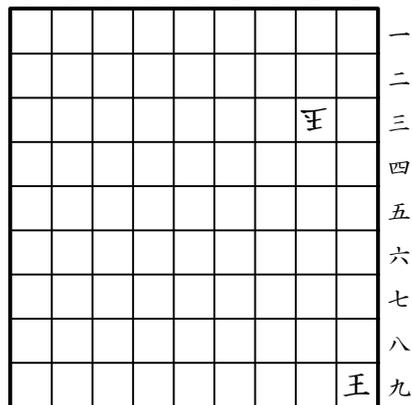
■ 80-1 神無太郎氏作  
協力白玉詰 8手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 角  
受方持駒 残り全部+G4

※G:Grasshopper

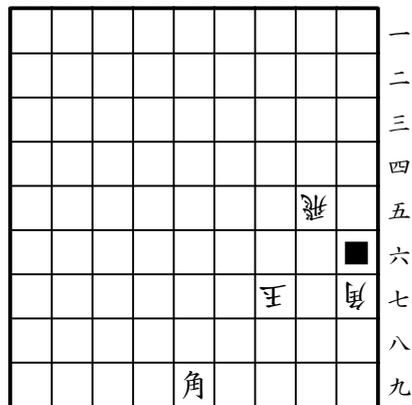
■ 80-2 神無太郎氏作  
協力白玉詰 8手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 香  
受方持駒 残り全部+G4

※G:Grasshopper

■ 80-3 占魚亭氏作  
協力詰 5手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛金  
※■:Imitator

■ 80-4 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				將	王	〇		一
						香		二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 桂

※Q:Queen

■ 80-5 変寝夢氏作

非連続王手レトロ協力詰 -6+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
								三
				王				四
			桂					五
								六
					科			七
					卒			八
							角	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 80-6 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
								三
								四
					科			五
				歩	王	卒		六
								七
			龍					八
								九

攻方持駒 n香

受方持駒 なし

※n香:中立香

■ 80-7 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
			角					三
								四
						王	又	五
						桂		六
						驎		七
								八
								九

持駒 n飛

※騎:Knight、n飛:中立飛

■ 80-8 変寝夢氏作

協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
								三
								四
								五
			王					六
					角	角		七
				龍	驎			八
								九

持駒 なし

※66王は中立駒

■ 80-9 変寝夢氏作

連続詰 14手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	一
								二
			45					三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※45:(4,5)-leaper、鬘:Lion

■ 80-10 真T氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				龍	G		王	一
							將	二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし

※G:Grasshopper

以上

**「第 44 回神無一族の氾濫」投稿作品募集**

「第 44 回神無一族の氾濫」の出題作を募ります。

今回のお題は「逆王手を含む作品」です。

双玉（多玉も可）で詰手順に 1 回以上の逆王手を含む作品をお送りください。逆王手を行うのは攻方でも構いませんし、逆王手さえ含んでいれば他のフェアリー条件は問いません。

また、1 題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。こちらも逆王手を含むものを優先して採用します。

作品要件	逆王手を含む作品
募集締切	2016 年 4 月 17 日（日）
募集作品数	4 + 1（ばか詰枠）
送り先	神無七郎 (janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可 採否は 4 月 24 日までに通知

## 推理将棋第98回出題

担当：NAO

あけましておめでとうございます。本年も推理将棋をよろしくお祈りします。

第98回は年越・年賀推理特集の第二弾。11手から28手までの4題を出題します。

1問目は初級11手詰。特集8題中唯一の初級問題は担当からのお年玉です。2問目斧間さん作の中級16手詰。先後各々の同種駒を上手に使う手順を見つけましょう。3問目は渡辺さん作の上級28手詰。97-4の続編です。前年のお返しにはどんな年賀状を送りましょうか。4問目はDD++さん作の上級28手。友人からの無茶な要求にどう応じましょうか。

今後の本コーナー予定

第97回（年賀4題）：12月24日出題済み、1月20日〆切り

第98回（年賀4題）：1月1日出題（今回）、2月20日〆切り

第99回（9手詰難解作）：2月24日頃出題、3月20日〆切り

第100回（10手詰難度ゼロ）：3月下旬出題

第101回（10手詰1条件）：4月下旬出題  
※第99回以降の特集作品も募集継続しています

[2016年1月2日更新] 98-1 余詰修正

98-1 担当作に余詰がありました。粗検深くお詫び申し上げます。

### 98-1 修正

会話文「派手に駒が成った」→「7手目に駒が成った」

条件文「成る手があった」→「7手目に駒が成った」

なお、解答につきましては元の条件を満たしていれば正解といたします。

余詰をご指摘いただいた小木さん、DD++さん、ありがとうございました。（1月2日

NAO)

### ■本出題

#### 98-1 初級 NAO 作

1筋の香 11手

1筋の香とは何段目の香か、推理しよう。

#### 98-2 中級 斧間徳子 作

2016(平成28)年の指し初め局 16手

5回王手が掛かる手順を推理しよう。

#### 98-3 上級 渡辺秀行 作

推理敵への年賀状 28手

先手の“ある駒”の軌跡を推理しよう。

#### 98-4 上級 DD++ 作

新年の無茶振り 28手

後手の“11と”で詰む形を推理しよう。

■締め切り前ヒント（2月13日頃コメント欄に掲載 NAO)

#### 98-1 初級 NAO 作

1筋の香 11手

「さっきの勝負どうだった？正月らしく派手に駒が成った7手目に駒が成ったそうだけど」

「11手目に1筋に香の手を指して詰ませて勝ったよ」

「おめでとう。2016年の指し初めにふさわしい一局だね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

そして2016年、貴方の勝負手は？

(条件)

・11手目に1筋の香の手で詰んだ

・成る手があった7手目に駒が成った

#### 98-2 中級 斧間徳子 作

2016(平成28)年の指し初め局 16手

「昨日の指し初め局は勝ったかい？」

「うん、16手目に28に着手した5回目の王手で相手玉を詰ましたよ」

「へえ、16手目に28の手で詰めたとは、今年の年初にふさわしい一局だね。で、どんな将棋だったんだい？」

「相手は3手目からずっと同じ種類の駒の手を指し続けてきたんだ。そこで猿まねというんじゃないけど、僕も4手目からずっと同じ種類

の駒の手を指し続けたんだ。駒を成る手はなかったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・16手目の28への着手で詰んだ
- ・先手は3手目以降、同じ種類の駒の手を指し続けた
- ・後手は4手目以降、同じ種類の駒の手を指し続けた
- ・王手が5回あった
- ・駒を成る手はなかった

---

### 98-3 上級 渡辺秀行 作 推理敵への年賀状 28手

「そう言えば、今年に出し返した問題を見せて欲しいって言ってたな。いいよ。

どうだ、いい感じの返しになっているだろ？」  
<簡条書条件を見せる>

「なにに簡単だって？まあ有り得る詰形がそんなにないからね」

<簡条書条件>

- ・28手で詰んだ
- ・後手はある端歩を6連続で動かした後、同じ端の筋の8箇所には香を着手した(※)
- ・駒成は不成だと反則になる場合だけ
- ・先手はある駒をこれまで居たことがない所に丁度11連続で動かしたが、うち6手は1筋側に寄る手であった
- ・5筋の着手が2度あった

(※) 香を移動する手と香を打つ手が可。香が移動して成も不成も可。成香の移動は不可(香の着手と見做さない)

---

### 98-4 上級 DD++ 作 新年の無茶振り 28手

「新年あけましておめでとう。早速指し初めしようぜ」

「ふむ、平成28年の1月1日か。では僕は28手目の『11と』で君の先手玉を詰ませたいのでよろしく」

「え？」

「それと僕は、初志貫徹で1枚の駒を着手し続けたい。ああ、でも、27年は終わったし、その駒で27地点に立ち寄りたくはないな」

「は？」

「君も僕もそれぞれ、唯一の成は駒を取らずに指したいね。お互い欲張った一年にはしたくない」

「ねえ、待って」

「その上で、君は歩を初手しか指さないのも成駒を動かさないのも余裕だよな」

「あの、ちょっと意味がわからないんだけど」

「なんだい。君が指し初めをしたいと言っただろう。じゃあ始めようか」

さて、あなたは注文通りに指して無茶振りに応えることができるだろうか？

(条件)

- ・28手目の「11と」で詰みにしたい
- ・後手は、27を避けて同じ駒を着手し続けたい
- ・先後それぞれ、唯一の成は駒を取らずに指したい
- ・先手は、歩の手は初手だけ、成駒の手はなしにしたい

## 推理将棋第99回出題

担当：NAO

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第99回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2016年3月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第99回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

今月は第99回に因んで「9手詰の難解作品」特集。

初級は9手詰マイスター渡辺さんの作品、通常出題なら中級クラスの難度です。中級は Pontamon さんの“九九”シリーズ1条件作。難解というよりは“解きにくい”印象です。手順を推理する前に九九のお復習いから。上級は DD++ さんの今回テーマの“難解さ”を追究した作品を出題します。

難解作と言っても9手詰の詰み形は限られているので、いつもと同じように気楽に解いてもらえれば幸いです。

### ■本出題

#### 99-1 初級 渡辺秀行 作

45まで 9手

45に着手する駒種を推理しよう。

#### 99-2 中級 Pontamon 作

九九が3組 9手

どの九九を使うのか、答えの着手地点を推理しよう。

#### 99-3 上級 DD++ 作

鞍上人なく鞍下馬なし 9手

金頭の馬が右に動く形を推理しよう。

#### 99-1 初級 渡辺秀行 作

45まで 9手

「昨日9手目に45へ着手して詰めたんだってね」

「うん、『1段目へ成る着手に歩で応じた手は面白い』って先生が言っていたよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手目の45地点の着手で詰んだ
- ・1段目に成る手に歩で応じた

#### 99-2 中級 Pontamon 作 九九が3組 9手

「九九をテーマにした作品を作ったんだって？」

「そうだよ、ゾロ目ついでに9手詰だよ」

「どんな問題なの？」

「2種類の駒の5手で、九九の着手が3組あるんだ」

「ちょっと待った、3組なら6手だろ」

「九九なんだから、同じ答えの九九だってあるだろ」

「なるほど、それも考えないといけないんだな。他の条件は？」

「他の条件は無いよ」

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・2種の駒5手で九九の着手が3組あり、そのうち2組は九九の答えが同じ ※

※九九の着手とは、着手した地点の数字が掛け算の“問題”と“答え”となるような九九の式を満たす2手1組の着手とする。

・九九の“問題”は着手地点の筋と段の一桁数字同士の掛け算とする。

・九九の“答え”は二桁数字で表した着手地点とする。

・九九の着手の組数は九九の式の種類で数え、九九の“問題”と“答え”を組み合わせると一つの式で1組とする。同一の九九の式が2回以上現れても1組に数える。このとき九九の着手には、使用駒種が多い着手（二種使っていれば二種使用の2手）のみを選ぶ。

・ある1手の着手点が九九の“問題”と“答え”の双方に使えるときは2組以上の九九の式に使ってもよい。

- ・着手点を九九の“答え”に使うときは2組以上の九九の式に使ってもよい。
- ・先後の着手、着手の出現順は不問とする。

例1：36歩と92香と18香の着手があれば、 $3 \times 6 = 18$ と $9 \times 2 = 18$ の2組に数える。

例2：36歩と66歩と18香の着手があれば、 $6 \times 6 = 36$ と $3 \times 6 = 18$ の2組に数える。

例3：92飛と29飛と18香の着手があれば、 $9 \times 2 = 18$ と $2 \times 9 = 18$ の2組に数える。

例4：9手中に「92飛、92香、18香、26歩、62歩、12歩」の着手があったとき、九九の式“ $9 \times 2 = 18$ ”を満たす着手は二種駒の着手組「92飛、18香」を選び、一種駒の着手組「92香、18香」は選ばない。残り、 $2 \times 6 = 12$ の「26歩、12歩」と $6 \times 2 = 12$ の「62歩、12歩」と合わせ、「92飛、18香、26歩、62歩、12歩」の三種の駒5手で九九の式が3組と判断する。

本問では、全手順の9手中に九九の着手がちょうど3組あり、3組の着手は2種の駒5手で構成されます。そして、5手のうち“1手”が2組の九九の双方の“答え”を満たしています。

### 99-3 上級 DD++ 作 鞍上人なく鞍下馬なし 9手

「や、これは、たった9手で詰められてしまった」

「馬をかなり活用できたからね」

「というと、やはり7手目かい」

「そうだね、金頭に馬がいるのに違和感があって、1筋方向へ移動させたら随分よくなった」

「こっちは着手が2つの段に分かれたのがよくなかったかね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・7手目は馬を金頭から1筋方向へ動かした
- ・後手は2つの段に着手した

# 第78回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第78回WFP作品展の結果を報告します。  
 今回の解答者数は前回と同じ7名。全題正解者はいませんでした。詳細は以下の通りです。

## 〔第78回WFP作品展成績〕(敬称略)

○：正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	11
一乗谷酔象	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
変寝夢	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	9
詰ガエル	○	○	○	○	○	×	-	○	-	○	○	-	8	
占魚亭	-	○	○	○	○	×	○	○	-	○	-	-	7	
やよい	-	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	5	
井上順一	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	4	

惜しかったのは一乗谷酔象さん。ほぼ全題正解を手中にしていながら、78-4のケアレスミスで誤答になってしまいました。また、78-6は中立駒とLocustの相乗効果か、反則手による誤答が複数寄せられました。

個人的には誤解の方が、思考過程が明示されている分、無解より価値が高いと思うのですが、78-6の誤解はルールに関する説明不足が要因にあると思うので、担当としては反省せねばなりません。詳しくは該当箇所の説明しますが、とりあえず今月の出題で中立駒に関する補足説明を一つ追加しました。

フェアリーはルールを理解して貰わないと話が始まらないのですが、実はこれが一番厄介な事なのです。

### ■ 78-1 神無太郎氏作 (正解3名)

#### 協力自玉スタイルメイト 12

9 8 7 6 5 4 3 2 1

													一
													二
													三
													四
													五
													六
													七
													八
													九

持駒 飛角騎4  
 ※騎：Knight

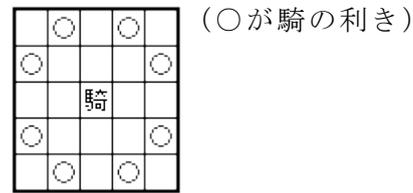
## 【ルール】

### •協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっているが合法手のない状態)にする。

### •ナイト(騎)

チェスのナイト。八方桂。



## 【解答】

46 騎 47 玉 26 騎 46 玉 19 角 37 飛  
 36 飛 同玉 28 騎 26 玉 38 騎 同飛成  
 まで 12 手

## (最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
								王 騎	八
								角	九

持駒 なし

## 【解説】

12手で持駒6枚なので、全手順駒打は確定です。目的はスタイルメイトなので、全部捨てるだけで良いなら話が早いですが、もちろんそうはいきません。

最大の問題は持駒のKnight(騎)。「桂があればまず打ってみよ」という格言がありますが、これは桂の王手に対し、直後に「同玉」とできないことと関係しています。騎でも事情は同じで、受方の駒が玉しかないこの形では、最初に打った騎は盤上に残ってしまいます。その騎を消そうと別の駒を打つと、その駒が残るので、結局何らかの駒は盤上に残ってしまいます。

しかし、18王という隅から一つ離れた場所にある自玉に着目すると、効率的にスタイルメイトに持ち込む定番の形が浮かびます。それは隅

に角を打って、その角筋に別の駒で蓋を置く形です。これは多くの作品で用いられ、筆者にもこの形を利用したのがあります (<http://k7ro.sakura.ne.jp/solve/solution17.html#第84回>)。この形を想定できるかどうかで解図の難度は大きく変わるでしょう。

問題は持駒が「騎」であり、蓋にしては利きが大きいことですが、この動きを止める手段が「ピン」の利用です。飛合を発生させて38に移動させれば、飛と玉の間の28の駒は動けません。従って18角を28騎で塞ぎ、28騎を38飛(龍)でピン止めする形が決まります。

この最終形が見えないと、玉を遠くへ呼ぶような初手46騎は打ちにくいと思います。本局の無解者が多かったのは、最終形もそうですが、この初手の心理的抵抗感によるところも大きかったのではないかと思います。逆にこの最終形が見えれば飛を37に打つために玉を46に呼び出すというストーリーも自然に浮かぶはずで

す。騎は将棋から見ればフェアリー駒ですが、チェスでは最初からある普通の駒です。そのせいかチェス系のフェアリー駒は、騎かQ(Queen)の性能を元に作られたものが多く、この2つの駒に慣れておけば、他のフェアリー駒にも対応が容易になります。本局はそんなフェアリー駒の基本中の基本とも言える「騎」に慣れるのに適した問題だったと思います。

【短評】

**変寝夢さん** (※無解)

1 9 桂、2 8 騎の形は想像がつかないです。

**たくぼんさん**

19 角+28 騎の筋が本命と思ったのが正解でよかった。

**一乗谷酔象さん**

19 をどう埋めるか考えたら解けました。

☆正解者は3名 (詰ガエル氏は短評なし)。

この手順にしては正直少ないと思います。本局はスタイルメイトの基本形の応用ですが、その基本形自体があまり知られていないということでしょうか。

■ 78-2 DD++氏作 (正解7名)

協力詰7手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	○		○	飛	○		○			一
○		○		○		○		○		二
	○		○		○		○		○	三
○		○		○		○		○		四
	○		○	王	○		○			五
○		○		○		○		○		六
	○		○		○		○			七
○		○		○		○		○		八
馬	○		○		○		○		馬	九

持駒 飛

※○：穴 (着手不可、通過は可)

【ルール】

• 穴 (○)

着手はできないが、走り駒が通過することはできる箇所。

• 協力詰

先後協力して受方の玉を詰める。

【解答】

15 飛 35 香 同飛 64 玉 66 香 53 玉  
33 飛成 まで 7 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	○		○	飛	○		○			一
○		○		○		○		○		二
	○		○	王	○	龍	○			三
○		○		○		○		○		四
	○		○		○		○			五
○		○	香	○		○		○		六
	○		○		○		○			七
○		○		○		○		○		八
馬	○		○		○		○		馬	九

持駒 なし

【作者のコメント】

60-1 にあった、穴でデザインパターンが形成されている特殊盤の問題です。

いろいろ考えてみた感じ、穴の割合はマスの半分にするが一番パターンも手順も多様性がありそうだったので、それで3作。

対称形で左右両方に余詰防止駒があるのは

普通の作なら気になるところでしょうが、こういう作品ならあまり気にならないかなと思っていました。

【解説】

「穴」を綺麗に並べた3部作。最初は市松状に穴を並べた作品です。

この作品では「穴」の基本的な性質を把握することができますが、最大のアピールポイントは「穴には合駒できない」ということです。

詰上り図を見てください。穴は退路封鎖にも役立っていますが、普通なら合駒ができる一間龍でそのまま詰んでしまっています。まるで「合駒なし」の詰上りですが、手順中にはしっかり合駒が出てきます。持駒制限と違って「合駒可」と「合駒不可」を同居させられるのが「穴」を使うメリットですね。

詰上りに至る手順も気が利いています。斜めに穴が並んだ構図から、斜め駒の入手を読みたくなりますが、市松状の穴のせいで飛が思うように動かさず、角の入手もままなりません。手っ取り早く手に入るのは銀合ですが、これも取った後うまく使えません。正解は香合をさせて、その限定打で角筋を止める手順ですが、この展開は初形からは想像しにくいと思います。

振り返ると、本局は最初から最後まで使用駒は飛角香という「走り駒」のみでした。通過はできるが、着手はできない「穴」のお披露目なので、それに相応しい駒を使おうという作者の明確な方針を感じます。また、本局は手数が短いので易しいですが、市松状に穴の空いた盤では玉は一つの段や筋に閉じ込められていないので、手順に大きな自由度があります。龍追いなども簡単にできるので、もしかすると今回の3パターンのうち一番発展の可能性のあるのが、この市松状配置かもしれません。

【短評】

変寝夢さん

角二枚の配置の意味を考えすぎた。  
龍一間飛びが相当きついですね。

占魚亭さん

15 か 59 かの二択。59 から考えて躓きました。

詰ガエルさん

詰め上がりで合駒できないのがうっかりし

やすい。

井上順一さん

角が品切れなので銀合が出てくると思ったが、角の効きを止める香合だった。

やよいさん

空きマスが斜めに並んでいるので第一感で銀合と思いましたが、違いました。

たくぼんさん

穴の存在でちょっと変わったばかり詰の世界が楽しめます。

一乗谷酔象さん

斜めの穴配置なら飛より角の方が強そうだが、止めの一間龍は最強。

☆本局は解答者全員正解。今回は全員正解が3問も出たので、担当としても嬉しいです。



■ 78-3 DD++氏作 (正解7名)

協力詰 17手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二	桂		飛				飛		桂	
三	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四				玉						
五	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
六	香								香	
七	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
八										
九	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

持駒 香

※○：穴 (着手不可、通過は可)

【解答】

58香 56角 同香 44玉 88角 66香  
同角 34玉 38香 36角 同香 24玉  
68角 46桂 同角 14玉 26桂 まで 17手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	一
桂		飛				飛		桂	二
○	○	○	○	○	○	○	○	○	三
								王	四
○	○	○	○	○	○	○	○	○	五
歩			角	香	角	香	桂	歩	六
○	○	○	○	○	○	○	○	○	七
									八
○	○	○	○	○	○	○	○	○	九

持駒 なし

【解説】

今度は「穴」が横に並べられた構図。玉は四段目に閉じ込められ、とても息苦しそうです。

初形で目立っているのは32と72に配置された2枚の飛。香で角合を請求して、その角で飛を取りたくなりますが、うまく筋が合ってくれません。かといって、一旦香合して別の筋で角を手に入れても状況は同じです。

そこで発想の転換。「玉が横には動けるのだから、きっと香打香合の趣向作だ！」…と、手を進めて玉を端まで追っても、そこで行き詰まりです。最後だけ香打金合にして腹金を打つのが本筋っぽいですが、桂に取られてしまいます。

本局は横に利く駒で詰ます構図に見えて実はそうではありません。前局が斜めに利く駒で詰みそうに見えて、最後は飛（龍）で詰ませたのと同様、意外な駒で詰ませます。それが「桂」。

答えが分かってから見ると、飛は手に入らず金でも詰まず、ましてや銀や歩では王手すらできないのですから、桂を使うのは当然なのですが、最初からそれに気付くのは難しいでしょう。そして、桂の打ち場所である26（または86）を空けておくという意味付けから、自然に香打角合や角打香合の反復が出てくるのですから面白いですね。限定打のための駒をたくさん置くと、配置が重く感じられるのに、規則的な穴配置ではそれを感じないのも不思議です。幾何的配置のマジックですね。

【短評】

変寝夢さん

穴が横に繋がっているだけで、角の利きが分かりにくくなってしまった。  
最終手桂は意外だった。

占魚亭さん

桂合が映える手順。

井上順一さん

持駒がめまぐるしく変わる。  
最終形がわからないまま、手をつなげていたら詰んだという感じ。

やよいさん

初め香打香合を繰り返し、案の定失敗。  
持駒角香4の古典を思い出しました。

たくぼんさん

2手目香合いは行き詰るのだがなかなか捨て切れなかった。

☆やっぱり香打香合は読みたくなりますね。

そちらを作意にした作品も見てみたいです。

■ 78-4 DD++氏作（正解3名）

打歩協力詰53手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
○		○		○		○		○	一
○		○		○		○		○	二
○		○		○		○		○	三
○		○		○		○		○	四
○		○		○	季	○		○	五
○		○		○	季	○	龍	○	六
○	王	○	歩	○		○	龍	○	七
○		○	歩	○		○		○	八
○	王	○		○		○		○	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※○：穴（着手不可、通過は可）

【ルール】

•打歩

打歩詰以外の詰手を失敗とする。（単純打歩）

【解答】

- 66歩 47金 同龍 86玉 85金 同玉
- 45龍 86玉 65歩 85玉 86金 84玉
- 24龍 64金 85金 同玉 64歩 84玉
- 85金 83玉 43龍 63金 84金 同玉
- 63歩成 83玉 64と 84玉 83金 85玉
- 45龍 65金 84金 同玉 65と 85玉

84 金 86 玉 26 龍 66 金 85 金 同玉  
 66 と 86 玉 87 金 同玉 47 龍 86 玉  
 67 と 87 玉 68 と 67 金 88 歩 まで 53 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
○		○		○		○		○	一
○		○		○		○		○	二
○		○		○		○		○	三
○		○		○		○		○	四
○		○		○		○		○	五
○		○		○		○	龍	○	六
○	王	○	王	○	龍	○		○	七
○	歩	○	と	○		○		○	八
○	王	○		○		○		○	九

攻方持駒 なし  
 受方持駒 金

【解説】

3部作の最後は穴が縦に並んだパターン。玉が8筋に閉じ込められているのですが、なぜか前局ほど息苦しさを感じません。将棋の駒が基本的に前に利くように作られているからでしょうか。そして、穴の隙間にある4つの回廊で、楽しい往復趣向が繰り広げられます。

本局のルールは「打歩」。そして68に歩が落ちています。他の筋に閉じ込められた駒はこの歩を取れないので、67歩でこれを取らないといけません。もちろん歩は後ろに下がれないので、「と金」に変身させてから68歩を取ります。

直接王手できない状況で歩が進むのは、本来は難しいことなのですが、本局は「開き王手」を使って間接的な王手による前進・後退を可能にしています。

基本となるのは歩で龍の利きを止めて、それを開ける操作です。龍は2枚しかないのですが、開き王手の軸になる龍も移動させなくてははいけません。必要に応じて金合で龍の利きを止め、開き王手時に金が手に入るようにして、手が途中で途切れないようにします。歩を成ってから復路も同様で、必要に応じて金を供給しながら開き王手を続け、遂に念願の68歩を手に入れます。

合駒を交えながら段を変えた開き王手が繰り返される趣向手順はとても珍しく、「穴」という特殊な舞台装置を上手に活用した作品だと思います。もし、手数だけを見て難問と思って敬遠した人がいたとしたら、ぜひ盤に並べて鑑賞

してください。

【短評】

占魚亭さん

68歩を取って88に打つのは丸分かりだが、適度に考えさせる。往路と復路の対称性がいいですね。

詰ガエルさん

楽しい手順。

井上順一さん (※55手解)

67の歩をと金に変えて開き王手で68歩を入手するという狙いが明確で、手順もおもしろい。が手数が2手オーバー。序、折り返し、収束とも手数短縮は難しそうだが。

☆井上氏は8手目から「65金 86金 同玉 65歩」と進めて惜しくも手数オーバー。

たくぼんさん

穴設置で面白い趣向が創れるんですね。新しい世界が垣間見えた瞬間かな。

一乗谷酔象さん (※57手解)

穴盤の3局、楽しめました。穴の特性を利用した限定手と合効かずの手が面白い。

☆一乗谷氏も余分に合駒して手数オーバー。手数を短縮しようとした形跡がないので、手数誤認のケアレミスだと思います。勿体ない！



■ 78-5 変寝夢氏作（正解6名）

協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
							王		九

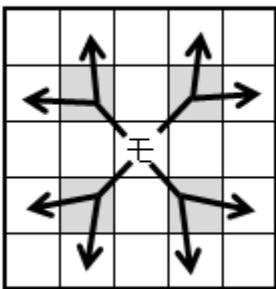
持駒 飛モ

※モ：Moa（中国象棋の馬を45度回転）

【ルール】

• Moa（モ）

中国象棋の馬（Mao）の斜め版。合駒の利く八方桂。Maoが上下左右のマスに駒があると先に進めないのに対し、Moaは斜めのマスに駒があると先に進めない。



（一旦斜めに一マス進み、次いで縦横に一マス進んだ八方桂の位置に着地する。網掛けで示した所に駒があると、その先のマスに進めない。）

【解答】

26 飛 19 玉 27 モ 18 飛 まで 4手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							飛		五
						モ	王		六
							飛		七
								王	八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

Mo入門編です。

【解説】

Moaは合駒のできる八方桂ですが、もう一つ重要な性質があります。それは合駒を取れないという性質です。本局はこの性質を利用し、Moaに対しての合駒で直接自玉を詰めてしまいます。4手の協力自玉詰双裸玉では「合駒を打たせ、それを動かす」という詰筋が基本パターンですが、Moaを使えば合駒を動かす手続きが省略できるわけですね。

本局ではこれで捻出された2手を「26 飛 19 玉」という一見ぼんやりした手に使っています。これは詰上りに向けて自玉の退路封鎖と、都合の良い位置への玉の移動を行っているわけですが、超短編で一刻も早く合駒を出したい所でこんなのんびりした手を指すのは心理的にやりにくいものです。解答者の評からも冒頭2手の指し難さが伝わりますね。

【短評】

占魚亭さん

19 飛同玉 27 モと読んで、26 飛に気付きました。

詰ガエルさん

2手目に合駒をしないのが少し意外でした。

やよいさん

前半2手が判らず苦労しました。

たくぼんさん

モもなかなかユニークな駒ですね。

☆Mao や Moa は良い漢字表記が思いつかなかったので「マ」と「モ」を割り当てましたが、もっと良い表記があれば使いたいと思っています。Maoは元から「馬」という表記がありますが、それだと成角と区別が付きません。何か良い提案があればお寄せください。



■ 78-6 変寝夢氏作 (正解3名)

協力自玉詰4手

								王		一
										二
										三
								王		四
										五
										六
										七
										八
										九

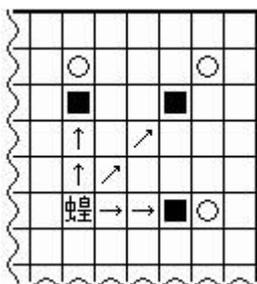
持駒 角n蝗

※n蝗：中立Locust

【ルール】

• Locust (蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。クィーンの利きの方向にある敵駒を跳び越えその先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。■は敵駒。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていると跳べない。)

• 中立駒 (「♁」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。  
横向きの字か横に n を付加して表記。

【解答】

21角 43飛 52n蝗 53角 まで4手

(詰上り)

									王角	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

L Oの威力は量りがたいのです。

【解説】

Locust は爪を隠した Queen。それが単独で盤上にある時は、利きも何もない不動の駒なのに、獲物が射程に入ったときだけ Queen の性能になって襲い掛かります。

本局の Locust は中立駒、つまり双方にとっての敵駒なので、これを敵駒の飛の代わりとして使い、自玉の退路を封鎖します。自玉が2段目に逃げると、Locust の利きが顕在化して、自玉が取られてしまうわけですね。詰上り図を一見すると、中立 Locust が異質な存在に見えますが、実質的には飛角図式の詰上りです。近接王手がなく、偏った方向からの睨みで形成されたこの詰上り型は想定困難だと思います。

この詰上りにはもう一つ、Locust の強いのか弱いのか分からない奇妙な性質が表れています。53角は Locust による王手を防いだ合駒ですが、これを取ることができないのです。53角を取る時はその跳び先である 54 地点が空いていないといけません、そこには受方玉が居座っています。前局で Mao が合駒を取れないのは、元からそういう駒だったからですが、Locust は局面によって合駒を取れたり取れなかったりします。局面に応じて性能が変化する駒は、感覚を合わせるのも大変です。

ところで、本局では中立 Locust を一段目に打つ誤答が複数送られてきました。中立駒で自玉に王手を掛ける手は通常の駒と同様に禁手であり、本作品展でも折に触れて説明してきたのですが、中立駒の「現手番側の駒を取れない」という規定をそのまま玉にも適用し、自玉への王手でないと解釈しても無理からぬところもあります。単にうっかりしたというケースもありましたが、まだルールが十分に浸透していないように感じます。

とりあえず、今月の出題から中立駒に関する自玉への王手の禁止と、その判定方法についての説明を出題時のルール説明に追加しました。

「指し終わった時に中立駒を相手側の駒とみなして自玉への王手になっている手は指せない」という趣旨の説明です。解答募集中の第79回分、及び新規出題の第80回分にも中立駒を使った作品が登場しますので、自玉への王手にはくれぐれも気を付けて解図に臨んでください。

【短評】

たくぼんさん

4手でこれだけ苦しむとは・・・  
詰型が見えないからかな。

☆作者以外の正解者は、たくぼんさんと一乗谷酔象さんの2名のみ。一段目に中立 Locust を打った誤答の解答者には、再度解図に挑戦していただいたのですが、締切間際のことだったので、さすがに間に合いませんでした。ルールの問題もありますが、作意自体も簡単でないのは確かです。

■ 78-7 変寝夢氏作 (正解4名)

協力自玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
				王						二
					桂					三
			鬘					王		四
				鬘						五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂香

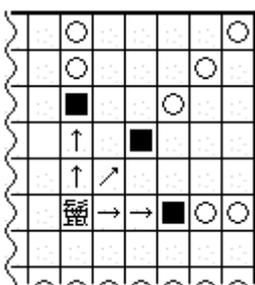
※鬘：Lion、n銀：中立銀

【ルール】

• Lion (鬘)

フェアリーチェスの Lion。

クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマ스에着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬘の利き。  
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【解答】

41 桂成 同鬘 53n 銀生 44n 銀 33n 銀生 24n 銀  
44 香 同鬘 34 桂 32 玉 まで 10 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王			二
									三
					鬘	桂	鬘	王	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

中立駒入りのスタイルメイトです。

【解説】

作者の狙いは中立駒が盤上に残るスタイルメイト。でも、それだけでなく銀鋸や桂消去のタイミングを限定する伏線のな手も入れて、なかなか欲張った作品になっています。

まずは銀鋸から説明しましょう。壁にくっついている自玉の横に腹銀を置くのはスタイルメイトの基本形です。とても効率が良いので煙詰などにも使われることがあるほどです。通常は腹銀を発生させるには「銀合→玉移動→銀移動」のように6手掛かります。でも本局の銀は中立駒なので、64に居る銀は(33桂の存在を無視すれば)たった4手で24に到達することができます。これが銀鋸という(通常なら)手数のかかる趣向がこの短い手数に盛り込める理由です。中立駒で受方の手番も使えるというのは本当に便利ですね。

次は銀鋸の邪魔になる桂の処置です。正解は初手に桂を捨てる手ですが、「53n 銀生 44n 銀」を先にして、後で桂を消そうとすると銀と玉の2枚がLionの利きを止めているので失敗です。「53n 銀生 44n 銀 43n 銀生 34n 銀」としてから桂を消すこともできますが、2手損ですね。

最後に本局のメインである「中立駒入りのスタイルメイト」について説明しましょう。

中立駒は自分の駒でもあるので、これが残っていると普通はスタイルメイトになりません。でも、普通でないことをやりたがるのが詰棋人。盤上に残っていても動かさなければ良いのです。そのためには24n銀のピン止めが必要です。

中立銀のピン止めのために飛を発生させる

必要ありません。盤上にせっかく **Lion** が残っているのですから、これを活用します。**Lion** は間に一つ駒を挟むと飛の性能になるので、鬣と玉の間に2つ駒を挟む形がピン止めの形になります。そこで **44** 香で **Lion** を四段目に呼びます。このとき自玉に逆王手が掛かっているのです、それを回避しつつ **34** 桂とすると、綺麗にピン止めの形が出来上がります。四段目の **Lion** と玉の間には桂と中立銀が挟まっていますが、どちらの駒も動けません。直接的には **Lion** が中立銀に紐を付けているので取ることもできません。**23** への逃げ道は最後の1手、**32** 玉により封鎖されました。スタイルメイトの完成です。

このピン止めの仕組みは原理的には今回の作品展冒頭の作 **78-1** と同種のものですが、**Lion** を使うことで止める枚数が2枚になるので、受ける印象はかなり違うと思います。

作者の言葉によると、スタイルメイトが作品のメインで、銀鋸の方が味付けのようですが、様々な要素を一つの作品に盛り込むことで、短編にもかかわらず中編作品のような豊かな味わいが生まれていると思います。

【短評】

**占魚亭**さん

**Lion** を **44** 地点に呼ぶ手続きが考え所。  
n 銀を先に動かし、苦労しました。

**たくぼん**さん

初手がなんとなくやってしまうのがちょっと残念。でも中立銀の稲妻の動きはすばらしい。

**一乗谷酔象**さん

n 銀の動きと鬣の活用。  
中身が深くて濃いです。

☆桂消去は苦労した人と、手なりでやった人に分かれたようですね。作る立場から言えば、仮に見え見えでも、入れた方が良く手だと思います。



■ **78-8** 変寝夢氏作 (正解7名)

レトロ協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

					王				一
				銀					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

【ルール】

•レトロ -m/n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(特に注釈のない場合、攻方王手義務があるものとして逆算する。また、協力詰では逆算手順でも受方は攻方に協力する。)

【解答】

51 馬(+龍) 22 龍/33 桂 まで -2+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				銀	王				一
								龍	二
				桂					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金	王				一
							龍		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

(出題図への手順) 52 龍 同馬 まで 2 手

(詰手順) 53 桂 まで 1 手

【作者のコメント】

5 2 龍とは馬鹿な手を指してますね。

【解説】

強力な駒を盤上に発生させること、玉の可動範囲が狭い形に戻すこと……本局はレトロを解く際の基本的な方針について学べる問題です。

逆算の初手は玉を動かすか馬を動かすかのどちらか。玉を動かす場合には 41 に何か、馬を動かす場合には 52 に何かを発生させます。そして、発生させる「何か」は飛（龍）だろうと見当がつきます。

玉を動かして飛を盤上に発生させると、玉が二段目に出るので、1 手詰の形は作れそうにありません。ということで、初手に動かすのは馬になりますが、馬は動けるところが多いので、風潰しでは手間が掛かります。正解は自玉の逃げ道を塞ぐ 51 への逆算。持駒が金のような詰め易い駒なら玉から離れたところに戻す手もありますが、あいにく桂なので、玉の近くに置いて退路封鎖に役立てた方が得策です。飛の逆算場所は 22。目標は 1 手詰なので、あくまで玉を狭く狭く逆算するのが基本です。

本局は例題的な作品ですが、こうした基本を知らないと、高度な作に対応できません。ある意味普通詰将棋の 3 手詰の役割と一緒ですね。

【短評】

占魚亭さん

桂打ちで 1 手詰の形といたら、これしかない。

井上順一さん

受方の持駒に制限がないので、強力な駒を盤上に出現できる。

やよいさん

レトロは前回 kif ファイルで解答しましたが、今回は記譜にトライしました。

(間違っていたらシャレになりませんが)。

☆解けていることが分かれば、記法はあまり関係ありませんので、お気楽に。

たくぼんさん

入門クラス。こういうのも必要。



■ 78-9 変寝夢氏作 (正解 3 名)

レトロ協力詰 -10+1 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					角				二
									三
									四
									五
					王				六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 金

【解答】

35 玉(+金) 37 金 26 玉 37 金持

15 玉 51 角(+金) 42 金持 62 角

16 玉(+金) 25 金 / 26 角成 まで -10+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					角				一
									二
									三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 金

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			角						一
									二
									三
							金		四
							王		五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

(出題図への手順)

15 金 同玉 51 角生 42 金 同角生 26 玉  
37 金 35 玉 46 金 同玉 まで 10 手

(詰手順) 26 角成 まで 1 手

【作者のコメント】

なるべく長手数を目指してみた。

【解説】

レトロで長手数の完全作を作るのは難しいことです。協力詰で適当に角と金を盤上に配置することを想像してみてください。仮に合駒制限をしていたとしても、玉を盤の端に追い込めば良いので、あまり長手数のもはできません。逆算の世界でも事情は同じです。とりあえず玉を端に寄せれば1手詰の形になるので、逆算を唯一に絞るのは難しくなります。

本局で長手数達成の助けになっているのは、使用駒制限と攻方王手義務です。逆算で言うと玉が攻方の利きに入るような逆算手を選択する

義務があるわけで、これが「余詰」ならぬ「余逆算」をかなり防いでくれます。

もう一つ、チェスのレトロと詰将棋のレトロの重要な違いについても考察しておきましょう。詰将棋では「持駒」という仕組みがあるので、駒が駒台を經由して本来の利きでは動けない場所に移動することができます。これは長手数の逆算を目指す場合には不利な要素ですが、物は考えようです。駒が盤と駒台を何度も往復するような逆算ができれば、華麗な手順で、パズルとしても面白いものが作れる可能性があります。そして本局では実際に金が盤と駒台を行ったり来たりします。

作意に沿って金の動きを見てみましょう。

初手で金は受方の駒台から盤に移動します。次に逆算4手目で盤から攻方の駒台に移動。逆算6手目で再び盤に戻り、その直後受方の駒台に移動、最後は逆算9手目に盤に戻ります。「金は天下の回り物」という諺を地で行くような手順ですね。

ただ、長手数の逆算は解答者にとっても厳しいのは事実。特に本局では玉から一番近い角の利きが24であるため、そこを目指す玉移動から読んでしまいがちです。

正解は一手間余分に掛けて15地点で角筋に入る手。角は結局62へ移動するので、最初から15に行った方が手数は少なく済むという理屈なのですが、わざわざ遠い方に行く手は読みたくないというのが自然な感覚だと思います。

【短評】

井上順一さん (※-14+1 解)

玉を盤端に持ってきて角成までと思うが、手数がかかりすぎ。

前半は作意っぽいようなのだが。

☆井上氏は「35 玉(+46 金) 46 金持 24 玉 51 角 (+42 金) 42 金持 62 角 13 玉(+24 金) 25 金 14 玉 26 金 15 玉 27 金 16 玉 37 金/26 角成 まで-14+1 手」の解答。作意に比べ金を持駒にするタイミングが早いので、逆算3手目が24玉に限定されるのが痛い。玉を16まで運ぶのに余分な手数が掛かってしまいました。

やよいさん (※無解)

隣のマスには逆算できるのに、なぜか46地点には逆算できませんでした。

☆今はまだ出題自体が少ないですからね。  
レトロに慣れればきっとこの種の筋も自然に解けるようになると思います。

**たくぼんさん**

王手義務があるにしても-10 手で簡素な形で表現できるとはビックリです。

■ 78-10 上谷直希氏作 (正解 6 名)

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					飛				二
						王	金		三
			と		王		金		四
					飛				五
				角					六
					桂				七
									八
									九

持駒 なし

【解答】

43 飛生 45 金 同飛成 同飛 35 金 まで 5 手  
(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						王	金		二
			と		王		金		三
					飛	金			四
				角					五
					桂				六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

5手ばか詰をこしらえるのは大変です。  
素材自体はかなり昔からありましたが、完成に至るまで本当に時間がかかりました。どうやら42 飛配置の発見が一番大きいようです。  
デメリットも大きい配置ですので、躊躇いの気持ちから無意識に避け続けていたのかもしれませんが。うーん、力んでますねー。

【解説】

42 飛を取れる形ですが、取る手を読む人はいないでしょう。正解は 42 飛の目の前で急ブレーキを踏む 43 飛生。両王手を掛けてしまわないよう、飛不成のオマケつきです。

「取れる駒を取らない」は江戸時代から詰将棋では人気のテーマでした。もちろん意味付けは普通詰将棋のそれとは異なります。本局で駒を取らないのは、逆にこの駒で取って貰うため。そうでないと、金合を取ったときに玉が逃げざるを得なくなります。玉は今の位置に居て貰った方がよいので、守備力を強化する手順を取って選ぶというわけです。普通詰将棋で受方の守備力を強化するのは、打歩詰が絡むときくらいですが、協力詰では別の意味付けが可能です。

本局では初手に「不成」で動いた飛を、3 手目「成」で元の位置に戻します。この辺の構成も隙が無いですね。出題時には本局は全員正解間違いなしと思っていたのですが、担当の予想は外れました。解答者を考えさせ、それでいて不自然な形でない超短編は貴重です。

「取れる駒を取らない」は更に発展させると「取らないで済むようあらかじめ逃がす」などの派生形を生み、意味付けも多様化しました。フェアリーの世界でも表現や意味付けは様々に発展できるはずです。貴方ならこのテーマをどう表現しますか？

【短評】

**変寝夢さん**

狙いが見えず苦戦。ただ4 7 桂が縦の動きを止めているようで残念。

☆初手で飛を動かす紛れを増やすという意味では、46 歩の配置もありますね。ただ、飛を取る紛れを強くするには3 筋を空けた方がよいので、一長一短でしょう。

**占魚亭さん**

45 地点が主役。とてもいいですね。

**やよいさん**

42 飛を取りたいのをぐっと我慢。

**たくぼんさん**

この間の5 手詰がヒントになりますね。

☆この間の5 手詰というと Fairy of the Forest

の**44-01**でしょうか。ピン止めされた飛(龍)の利き筋に打つ頭金の詰上りは本局と共通の感覚ですね。作者はブログで**5**手ばか詰についての連載をされているので、そちらもヒントになりそうです。

一乗谷酔象さん

白状します。  
解図時間が12題中1番長かった。



■ 78-11 上谷直希氏作 (正解5名)

強欲詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
					銀	歩		角	三
								飛	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 桂

【ルール】

・強欲

駒を取る手を優先する。  
(本局は「強欲」という条件が付いている以外は、普通の詰将棋と同じルール設定で作られています。また、作意には透かし詰が使われており、最終2手には変同があります。)

【解答】

24 桂 13 玉 41 角成 24 玉 33 角 同玉  
13 飛成 まで 7 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬				一
									二
						王		龍	三
					銀	歩			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

超短編でたまに見る、離して打つと移動合で詰まないアレを一度やってみたかったのです。**33** 角の短打の前に一路遠く進む開き王手が入り対比効果が出てきました。単純ですがお気に入りです。

「こんな小さいスケールでもフェアリーとしてやっていける」、私の立場としてはそのことを大切にしていきたいです。

【解説】

取らないための「取らせ短打」と「限定移動」。距離感の異なる2つの角の対比を鮮やかに描いた作品です。

まず、本局最大の眼目である「取らせ短打」から説明しましょう。もし**5**手目を**42**角や**51**角のように離して打つと、**33**銀と移動合をされたときに「強欲」条件のため同角と取るしかなくなります。すると、**44**地点が空いているために、作意と同様に進めてもそこから脱出されて不詰となります。一方作意の**33**角短打なら、同玉は作意順で、同銀は**14**馬で詰みます。角を遠くに打って移動合した場合と異なるのは、この**14**馬ができるかどうかです。角を取られるおかげで銀を取らなくて済む、これが短打の目的だったわけです。前局(**78-10**)の「取れるのに取らない」を裏返したような感じですね。

普通詰将棋でも「取らせ短打」を時々見掛けますが、その意味付けには「打歩詰防止」か「邪魔駒化防止」が用いられます。本局の「取らせ短打」は「取るの手が残るのを防ぐ」という意味付けであり、普通詰将棋では実現できないものです。

更にこの「取るの手が残るのを防ぐ」という意味付けは**3**手目の限定移動にも使われていま

す。ここで 32 角成とやってしまうと、33 角と短打しても同銀の後、「強欲」の条件により同馬を強制されて不詰となります。これは角の短打を遠打に変えても同様で、遠打に対して合駒を打って、「強欲」の条件による 33 での清算の後、44 から脱出されます。同じ舞台装置を二重に活用して、角の限定移動と角の短打で長短二様の対比を演出したのは上手いですね。

なお、作意は 6 手目同玉と取って 13 飛成まで「すかし詰」ですが、6 手目同銀として 14 馬の手順も変同で、解答はどちらでも差し支えありません。

【短評】

変寝夢さん

5 手目の意味づけはかしこでもできるので、もっとぶっとんだ手順を見てみたい。

☆5 手目の意味付けは普通詰将棋ではできないはずですが…

詰ガエルさん

41 角成が面白い。

井上順一さん

角の最遠移動と角の短打の意味づけが、ともに強欲ルールによるところがよい。

たくぼんさん

駒取りにならないように最遠移動と直打ちとは面白い狙い。

一乗谷酔象さん

32 角成では近すぎてダメですね。

☆何だか短打より限定移動に言及した短評の方が多いですね。短打が主役で限定移動が脇役と思っていたので、これは意外でした。



■ 78-12 上谷直希氏作 (正解 1 名!)

協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							馬		一
							王		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

※透明駒 攻方 1 枚、受方 1 枚

【解答】

23 香 11 玉 -X 12 角打 -X まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							馬	王	一
							X	馬	二
							香	X	三
								X	四
								X	五
								X	六
								X	七
								X	八
								X	九

持駒 なし

(※ X は透明駒がある可能性のある場所)

【作者のコメント】

23 香 11 玉 -X 12 角打 -X まで 5 手詰

この棋譜表記をする手順の可能性は 2 つあります。

1) 1 筋で受方の透明駒を取って最終手で打った。

相手の透明駒はもう既に存在しないので、受けなしであるのは問題ないですね。

4 手目角合なのは最終手が角でないことを証明するためです (角だと透かし詰め不可のばか詰では詰んでいないことになる)

2 1 角の意味は品切れのためもちろんありますが、加えて最終手が飛打であっても同様の理由で困りますので、玉の腹を埋める必要があるからでもあります。

## 2) 13 龍→22 龍

この順が問題です。受方の透明駒はどうしたというのでしょうか？

ここに 23 香の限定短打の意味があります。

初手 24 香とすると、例えばこんな初形配置が考えられます。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						香	玉		一
							玉		二
			飛						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

これでは最終手 22 龍を受方の透明駒(31 金)に取られてしまいます。

23 香によって 13 への飛の横利きを遮断すると、

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							玉		一
							玉		二
							香		三
							飛		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

この図しかありえず、つまり 3 手目の 13 飛成は受方の透明駒を取った手と説明されるのです。ちなみに 24 龍、23X (受方の透明駒) の組み合わせでは 23 香を打てません。

この「成駒は打てない」というアイデアを初めて知ったのは受先形式のばか詰ですが、こん

な表現方法もあるんだなあと思っていただければ。

### 【解説】

同じ「短打」でも前局とはずいぶん趣の異なる作品。透明駒の飛の横の動きを自ら制限することで、受方の透明駒の品切れを狙うという深謀遠慮の短打です。

詳細は作者のコメントで説明されていますが(担当としては助かります)、4 手目の 12 角打で 3 手目の王手を縦からの王手に限定するのが肝要。この王手が 14 以遠であれば、最終手は 22 に駒を打った可能性しかなく、それにより 3 手目は受方の透明駒を取った手に限定され、受方の透明駒が守備に利いている可能性も消えるというわけです。

唯一の懸念材料が、3 手目の王手が 13 龍で、これが更に 5 手目 22 龍と動いた可能性ですが、初手に 23 香と短打したおかげで飛の横方向の活用が阻害され、仮に 3 手目が 13 龍だったとしても、それは駒を取った手になります。もちろん成駒は打てませんから、3 手目が 13 龍打った可能性はありません。

更にこの香は最終手が 23 桂である可能性も消していて、最終手に対し 22 玉とする受けを防いでいます。また、作者のコメントにある通り、21 角は角を品切れにする役目と横からの王手を防ぐ役割を果たしています。あらゆる駒が二重三重に働いていて、とても効率的な配置ですね。

最終手は結局透明駒を打ったのか、透明だった龍が動いたのか分かりませんが、透明駒の種類を特定するのが目的ではなく、詰めることが目的なので問題ありません。透明駒作品においては、可視の持駒が余らない限り(透明駒が持駒にあっても)手余り不完全としないのが、決まりです。

本局のように玉の周囲をあらかじめ埋め、王手可能な箇所を極端に狭める手法は、反則手のように見える手で可能性を絞り込む手法とともに、透明駒作品を解図・作図する上で必ず念頭に置くべき「鉄則」だと思います。皆さん憶えておきましょう。

### 【短評】

#### 一乗谷酔象さん

これは凄い。3 手目は 1 筋の 3~9 段目で 21 通り(龍 7 通り+飛 8 通り+香 6 通り)、4 手目

限定合、5手目-Xは3通り(龍金銀)。  
全て割り切れている。  
初手24香が第一感でした。(24香 - X - X  
11玉 21Xは、最終▲21飛不成で失敗)。

☆本局唯一の正解者は一乗谷酔象さん。  
お見事です！

【総評】

変寝夢さん

透明駒は変則リーパーより考えにくいと思  
うんだけどなあ。

☆確かに透明駒は難しいと思います(実際、  
今回は正解者1名でした)。ただ、詰棋人は  
難易度より自分の興味を優先する傾向があ  
るので、「易しい=解答増」の図式が成立す  
るとは限りません。とりあえず自分が面白  
いと思う作を出していれば、同好の士が現  
れることもあるでしょう。

一乗谷酔象さん

2月初めから解き始めました。久々に全題正  
解に挑戦。怪しいルールを理解が足りてい  
るかどうか。

☆怪しいルールの方に少し気を取られ過ぎま  
したね。でも **78-12** での正解は2問分以上  
の正解に匹敵すると思います。  
今月以降も継続的な挑戦をお願いします。

以上



# Fairy of the Forest #46解答発表

- 2015年11月20日：課題発表：(協力詰)
- 龍または攻方王が活躍する作品
- 2016年01月15日：投稿締切
- 2016年01月20日：出題
- 2016年02月15日：解答締切
- 2016年02月20日：結果発表
  
- 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)  
 (○は全題正解者)

○神無七郎、○占魚亭、変寝夢、井上順一、  
 やよい、○たくぼん

■ 46-01 神無八級 協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇		一
									二
								科	三
								王	四
									五
									六
							龍		七
									八
								襲	九

持駒 なし

18 龍 25 玉 29 龍 28 龍 同龍 16 玉  
 17 飛 まで 7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇		一
									二
								科	三
									四
									五
								王	六
								飛	七
							龍		八
									九

持駒 なし

やよい一下がる龍に、それを追う玉。

占魚亭一龍と玉の絶妙な距離感。

☆龍のソッポ行きをテーマに作りました。受方龍を合わせて3回ソッポ。もっと回数を増やしたかったのですが、龍が強力すぎてかなわず。龍のジグザグ運動に伴い、玉もジグザグ運動しますが、これは主題の副産物。

変寝夢一他合でよく詰まないものだ。

☆余詰防止駒2枚は仕方ないですかね。受方持駒を制限すれば、もっとソッポ回数を増やせそうですが……。

七郎一初手、第一感は23龍。19龍を取りに行くと非限定が出てきそうに思えたので、本能的にこの手を除外してしまいました。移動合で限定になるんですね。

☆ソッポ回数に拘った分、紛れが減ったかも知れませんが、紛れより狙いを優先すべきと考えました。

たくぼん一狙いがはっきり表現できている好作だと思います。

☆作者として、この評は嬉しかったです。

■ 46-02 たくぼん 協力詰 7手 (受方持駒なし)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							皇		三
							王		四
									五
									六
							皇	香 玉	七
								香	八
							香	香 角	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

36 王 34 玉 47 王 45 玉 38 王 56 玉  
 27 王 まで 7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						香			三
									四
				飛					五
				王					六
				馬		香	玉		七
							香		八
			香	香		角			九

持駒 なし

作者—先手玉1周（持駒制限あり）余興作。

井上順—全着手玉で先手玉が一周する。

☆今回の中では唯一、攻方王が活躍する作品でしたが、楽しんでもらえたようです。

七郎—王様同士の一騎打ち…のはずが、伏兵にバッサリ。回る先手玉と流れる後手玉の対比も面白い。受方持駒制限があっても、詰上りで47合を読んでしまうのはもう「習性」としか言えません。

☆確かに……。

やよい—「攻方玉の1回転」に気付くのに案外時間がかかってしまいました。

占魚亭—王の一回転を投稿しようとしたものの上手くできなくて断念したのですが、持駒制限でやればよかったのか。

☆今後のご出品を期待します。

変寝夢—課題はルントラ何とかでしたっけ？左に4つずらすと余詰なんでしょうね。

☆この位置は絶対ですね。例えば1路左にずらすと、46王、44玉、17角まで角を右に使われてしまいますし、1路上にずらしても、初手33香成以下の早詰・余詰が成立します。

■ 46-03 たくぼん 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

98龍 97飛 同龍 85玉 65飛 75玉  
67龍 まで 7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者—龍が活躍とまではいかないかも。

七郎—2手目格好良く97角生とやって失敗。この形なら、そうやりたくなりますよね？合駒を直ぐ取る俗手が意外とやりにくいです。

占魚亭—第一感は金合でした。

やよい—飛合から65飛の手順が見えにくかったです。

☆皆さん、結構苦戦されたみたいですね。飛龍の協力による詰上りに気づくかどうかですが、確かに見えにくいですね。

変寝夢—64歩・94金がもったいないような気がします(04も)。

☆細かくは調べていないのですが、やむを得ない配置なのでしょうね。64歩があるので、65飛にやや抵抗感が生じているかも。

■ 46-04 たくぼん 協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
香			歩						四
									五
王	銀	歩							六
									七
	龍								八
桂									九

持駒 なし

87龍 85玉 76龍 96玉 97歩 同玉 87龍 まで7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
香			歩						四
									五
	銀								六
王	龍								七
									八
桂									九

持駒 なし

作者-03に後手76歩を置いたのが04です。

☆「姉妹作」ということですが、こちらは簡単だったようです。玉を97に誘導し、龍が87地点に戻って詰上りとなります。

占魚亭-素直な手順ですね。

七郎-これはさすがに一目。「初手と最終手が同じ」という課題ならピッタリですが、前局とペアと見ても微妙な作。

やよい-こちらは一目。一步の有無で全然違う手順になりますね。

井上順-こちらはすぐ解けたが、姉妹作のほうは全然わからなかった。

☆03の作者コメントは、04の間違い？

■ 46-05 神無七郎 協力詰 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	銀		二
					歩	香			三
							歩		四
							王		五
							龍		六
							香		七
						龍			八
					香	玉			九

持駒 歩14

16歩 同玉 17歩 同銀生 36龍 26銀生  
 17歩 同玉 18歩 同玉 38龍 28香生  
 19歩 17玉 37龍 27銀生 18歩 16玉  
 36龍 26歩 17歩 15玉 16歩 同銀生  
 35龍 25銀 16歩 同玉 17歩 同玉  
 37龍 27歩成 18歩 16玉 36龍 26銀  
 17歩 同玉 18歩 同と 37龍 16玉  
 17歩 同銀成 36龍 15玉 16歩 24玉  
 33龍 25玉 34龍 26玉 27歩 同成銀  
 37龍 16玉 17歩 25玉 36龍 24玉  
 25歩 15玉 16歩 まで 63手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	銀		二
					歩	香			三
							歩		四
							王		五
						龍	歩		六
							香		七
							玉		八
					香	玉			九

持駒 なし

作者－2筋の3枚を邪魔にならない場所に移動する問題。特に26銀をどう扱うかが鍵です。この銀は取ることもできますが、それでは手数不足になります。

☆（初手～12手目：27香→28香）

38龍がいたままでは18玉の形にできません。そこで、17銀・16玉の形で龍を36に移動。26銀に歩の連打から18玉として、38龍に28香と香を前進させます。

☆（13手目～20手目：25歩→26歩）

18玉を歩の王手により1段ずつ上げます。その途中で、37龍に27銀で26を空け、36龍に26歩と空いた26地点に歩を前進させます。

☆（21手目～32手目：26歩→27歩成）

27地点を空けるために、27銀を16→25と移動させます。35龍、25銀の時点で、初形の25歩・26銀が入れ替わったこととなります。さらに、37龍に27歩成と歩を成らせます。

☆（33手目～40手目：27と→18と）

いったん36龍、26銀の形にしておいて、玉を17へ誘導。18歩を同とと取らせます。

☆（41手目～54手目：26銀→17銀成→27成銀）

27とが移動して空いた空所に成銀を持ってきます。まずは17歩で銀を成らせ、巧みな龍の動きで26玉の形にしてから、27歩。同成銀でやっと銀をどかすことに成功しました。

☆（55手目～最終手：収束）

守備駒を7段目以下に移動させたのは、25歩・16歩の詰上りを実現するためでした。17に先打した歩を突いて、大団円となります。

変寝夢《無解》－23手目16歩が発見できず撃沈、ていうか発見できても無理でした。意外と強引な攻め方でしたね。

占魚亭－銀と歩の入れ替えが鍵。入れ替えた後もなかなか上手いはず、試行錯誤してなんとか解けました。

☆龍と玉の位置を微妙に変えながら、守備駒を順次移動させていく構成が見事です。

たくぼん－銀を一旦25まで逃がさないと手が続かないのが上手い仕掛け。詰み型も浮かび難く37龍が何故か見え難い1手でした。まさに完成品。

☆正解者が2名だけなのが残念。多くの人に味わっていただきたい佳品です。

### 【総評】

七郎－玉が活躍したのは46-02のみ。やっぱり活躍させやすいのは龍ですね。

（王手を受けて逃げ回るのも「活躍」に含まれば、全局で玉が活躍していますが…）

☆それもあって、「攻方」王に限定しました。

「受方」玉だと（不動でない限り）活躍するのは当然でしょうから。

変寝夢－今年もよろしくお願いします。

☆皆様のご協力によって、当コーナーを盛り上げていきたいものです。

やよい－前回さぼってしまいましたので久々ですが、解答をお送りします。

☆ありがとうございます。今後もよろしく。

たくぼん－解答するのに自作が多いから楽（46-05は別）なのですが、やはりちょっと寂しい感じですね。今話題の上谷さんのブログでばか詰の面白さを知って頂き、たくさんの方に参加して欲しいですね。

☆上谷直希さんのブログは下記です。

「フェアリー時々詰将棋」

<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-34.html> ばか詰の手筋等が紹介されています。

（注）次回課題発表はスペースの関係で、P57をご覧ください。

## 強欲な世界 パート4 解答発表

長編の煙5題とハードな出題でしたが、5名の方から解答を頂きました。ありがとうございました。

【解答者】(敬称略)

占魚亭、橋本孝治、隅の老人B、井上順一、変寝夢

井上さんは1題のみの解答、変寝夢さんは解けずとも短評を送って頂きました。感謝。

1番 強欲協力詰 75手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							香	と	一
				と			歩	飛	二
			銀		桂	皇	香	と	三
		歩	歩				と		四
	玉		歩	と			と		五
桂		歩	香				と		六
皇		香	銀	角	歩				七
歩	歩	香	歩	香	桂		と		八
皇			飛	皇		桂		銀	九

持駒 なし

74 銀生 96 玉 97 歩 同玉 99 飛 88 玉  
 89 飛 同玉 78 銀 同玉 79 香 同玉  
 67 歩 57 全 78 金 同玉 79 香 67 玉  
 68 歩 76 玉 77 香 同玉 88 金 68 玉  
 78 金 58 玉 68 金 48 玉 58 金 39 玉  
 29 と 同玉 18 銀 同玉 23 と 寄 12 金  
 17 金 同玉 16 と 同玉 15 と 同玉  
 14 と 同玉 13 と 同玉 12 と 同玉  
 23 金 同玉 34 と 22 玉 33 と 同玉  
 39 香 43 玉 53 と 同玉 54 歩 同玉  
 65 銀 同玉 66 歩 同玉 57 金 同玉  
 68 銀 47 玉 48 歩 同玉 59 銀 39 玉  
 93 角 49 玉 48 角成 迄 75 手

★ 2手目二択の場面から始まる。74 銀生を同々と取ると75歩、同とで行き詰るので96玉と決まる。7手目も89歩から同金、同飛と行く手もあるがその後78銀しかないので89飛~78銀の方が1歩少なく済む。15手目から金を奪う順はたまに出てくる手筋なので覚えて置かれるとよいだろう。88金から右に追い39玉の場面で29と

以外に38との紛れが出てくる。以下同香(成)28銀、同玉、27と以下結局は手が詰まります。23とで金を奪った後も、28金と捨てる手もありますがこれも先ほどの紛れ同様の順で不詰。と金をすて下段に落とし12金を奪って33香を取ったところがこの作品のポイントの部分になります。

(54手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				と					二
					桂	玉			三
		銀		歩					四
			歩						五
									六
				香	歩				七
				金					八
				皇					九

持駒 香

★ ここでは香を打つしかありませんがどこへ打っても43玉以下同じ手順で進みます。そして成銀を取ったときが問題です。香打ちの場所がはたしてどこか？(66手目)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					玉	歩			六
									七
									八
				皇					九

持駒 銀歩

★ ここから9手で詰まさないといけません。銀と歩だけでは詰まないの馬を取ります。取る手順は68銀、47玉、48歩、同玉、59銀です。ここら4手ですから同玉ではダメ。3筋のどこかに打たれた香を取らせ駒にするというわけです。37や38ではダメなのはお分かりでしょう。39香と打ちこの位置に玉を呼び、最後93角、49玉、48角成として詰上がりです。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							馬		八
				銀	王				九

持駒 なし

★ FMの局面解析数は3634とかなり少ない作品で考えどころは少なく幕開け物ですが、39香と見所だけは入れたつもりでしたが、意外とこの手への反応が少なくちょっと意外でした。

占魚亭

18銀からの捌きが爽快。詰上りの予想に手こずりました。

橋本孝治

迷ったのは31手目。38と、同香、28銀…の筋がそれらしく見えました。39玉を誘うための39香遠打の意味付けは面白いですが、この一手だけではちょっと弱いですね。

隅の老人B

まずは初形の駒配置を一瞥して、これは、たくぼんさんお得意の煙詰？と推察。初手74銀にどちらを取ろうかなで始まり、96桂を取ったのは良いけれど、これで74銀が消えるかな？です。最終の詰上り場所は右上辺と予測していたのに、これは大外れ。最下段で詰上げて、思わずニッコリです。

変寝夢

初っぱなから撃沈です。49手目23金がどうやっても出てこず、11金で追ってしまいました。角と香の遠打が見事です。

★ 23金以下の香を取る手順は強欲手筋といってもいいくらいよく出る順です。

2番 強欲協力詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				龍					と
			歩	角			王	歩	二
と	龍		又	歩	歩	歩		歩	三
	歩	香	歩	王				王	四
	歩							銀	五
歩	桂	桂	杏		歩	王	歩	桂	六
		又	手		王		王	と	七
				王	角		銀	香	八
			香		と				九

持駒 なし

12と 33玉 43角成 同玉 53龍 同玉  
63龍 同玉 73香成 同玉 83と 同玉  
84歩 72玉 64桂 同全 73歩 同玉  
74歩 同全 83歩成 同玉 84歩 同玉  
67杏 48全 85歩 同全 76桂 同全  
85歩 同玉 76杏 96玉 85銀 87玉  
77杏 同玉 78歩 86玉 87歩 同玉  
76銀 78玉 67銀 69玉 58銀 同全  
59金 同全 同と 同玉 48銀 同玉  
37銀 同玉 27と 46玉 36と 同玉  
35金 同玉 24銀 26玉 15銀 同玉  
24桂 同玉 23金 同玉 22と 13玉  
14香 22玉 13金 11玉 12金 迄 77手

★ FMの局面解析数は12520。程よい難易度と言ったところでしょうか。本作の見所は初手の究極の2択です。初手は12と？はたまた12歩成か？もう一つと金を作る方が得に見えますが果たしてどうでしょうか・・・。とりあえずそこは保留して手を進めると2つ目の考えどころは17手目。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								と	二
		王						歩	三
								王	四
		歩	王					銀	五
									六
歩	桂		杏		歩	王	歩	桂	六
		又	手		王		王	と	七
				王	角		銀	香	八
			香		と				九

持駒 歩6

★ ここから 83 歩成、同玉、84 歩、同玉、67 杏、48 全、76 桂、同と・・・と作意同様に歩を節約して行く事ができますが、この順だと 76 で取れる駒が歩となり、行き詰ってしまいます。ちょっと歩は多く消費しますが、成銀を連れて来て 76 で取れるようにするのが面白い手順です。この当たりの折衝はなかなか面白い中盤と思います。その後は流れによって玉を運びいよいよ収束です。68 手目の局面がこちら。残り 9 手

(初手 12 との時)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									と
									歩
							王	香	四
									五
									六
									七
									八
									香
									九

持駒 金

(初手 12 歩成の時)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									と
									と
									三
							王	香	四
									五
									六
									七
									八
									香
									九

持駒 金

下の図は 23 金以下、同玉、22 と、同玉、12 と、同玉・・・以下 11 手かかってしまいます。大事なものは 13 歩の存在です。22 との時に 13 玉と玉を呼べるのが大きいのです。しかし短評を読む限りそこに言及されたのは橋本さんだけ。作者が思うようにはいかなかったようです。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									金
									三
									香
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

占魚亭

成銀を取るタイミングが考え所。

橋本孝治

収束で初手まで戻りました。「と金」が増える方が良いつて思いますよね、普通。また、17 手目すぐに 83 歩成としないで、成銀を引っ張ってくる中盤の細かい手順が好感触。「同玉」が少ないほど煙詰は面白くなると思います。

隅の老人 B

これも煙詰と信じて、駒を消すことに専念して、先ずは王を左辺へ追います。中盤、これは切れたのかと思ったら、67 の成桂を取る妙手？がありました。駒を捨てることばかりを考えて、取ることを忘れて、「迂闊者」です。「強欲」らしい捌きが最後まで続き、楽しく解図できる好作。

変寝夢

19 手目歩をなってしまう終了でした。手が広いなあ。銀ので玉を V の字に誘導するところが見どころでした。

3 番 強欲協力詰 85 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	王			銀	歩	入	銀		一
歩				香		と	と		二
				歩	香				三
	歩			香	歩	香			四
角		歩			歩	香		歩	五
		入				歩	入		六
		香		香			歩	桂	七
桂	と	香		飛	飛	金	香	桂	八
香			歩		歩			桂	九

持駒 なし

91歩成 同玉 92歩 同玉 83歩成 同玉  
 73角成 同玉 62銀生 同玉 68飛 同金  
 同飛 同銀成 61金 同玉 51香成 同玉  
 41と 同玉 31と 同玉 34香 21玉  
 22歩 同玉 23歩 同玉 24歩 34玉  
 26桂 24玉 25歩 15玉 27桂 同金  
 16歩 26玉 27金 同馬 37金 17玉  
 27金 同玉 18角 16玉 27角 25玉  
 16角 36玉 25角 45玉 34角 54玉  
 43角生 53玉 64金 同玉 54角成 75玉  
 76馬 同玉 77歩 67玉 68歩 同玉  
 78と 同玉 87銀 77玉 86銀 88玉  
 97銀 同玉 86桂 同玉 97銀 95玉  
 88銀 97金 同香 86玉 87銀 97玉  
 98金 まで 85手

★ 解析局面数は 24047。序盤の関門は 11 手目  
 68 飛とした場面。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩	と	銀		一
			王	香		と	と		二
				歩	と				三
				香		歩			四
		歩			歩	香		歩	五
		と				歩	と		六
		と	と			歩	桂		七
桂	と	と	飛		飛	金	と	桂	八
香			歩		歩			桂	九

持駒 なし

取り方は3つ。同金か同銀生か同銀成か。  
 攻め方は最初にとった駒を手にするこ  
 になります。その後を考えると 51 香成以下  
 追うには 61 に玉を落とす必要があります  
 ので 61 金と打てる金を入手することが必  
 要と分かります。68 金、同飛、同銀・・・こ  
 の銀で取ったときの成か不成かが 2 択とな  
 ります。こういう時は保留して進めるのが  
 定番の解き方です。若干の紛れがある中、  
 進めていき、馬を取ります。(44 手目) こ  
 こから角追い趣向が始まり 76 まで玉を連  
 れて来てこの場面。(62 手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			王						六
									七
									八
桂	と	と	と						九
香			歩						

持駒 歩

この図で 68 の駒が銀か成銀か？ここでは  
 77 歩と打つしかないので、68 の駒が生銀  
 だと同銀と取られ同とと進みます。まあこ  
 の先詰まないのですが、歩を取った手も成  
 生非限定ですので間違いと気付くでしょ  
 う。68 成銀型だと 77 歩に 67 玉とかわす事  
 が出来て銀を 2 枚手にすることができるわ  
 けです。収束はちょっと気付き難い 88 銀  
 と引く開き王手が入り満足いく収束です。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九
王	銀								
金									

持駒 なし

占魚亭

18 角からの追跡が気持ちよかったです。

橋本孝治

14 手目成・不成の選択でハズレの方を引き  
 ました。収束も結構難解。盤上の駒を増や  
 したいところで、逆に減らしそうな 72 手目  
 88 玉がやりにくい手です。銀ソッポ行きの  
 収束が味が良いので、ここが創作の出発点  
 でしょうか。

隅の老人 B

私には、68 飛で金を手に入れる処と終盤の 76 馬が特にお気に入りの好手です。中盤、奪った角を使って次々と歩を消してゆく軽趣向も面白い。

変寝夢

38 手目 16 同玉にはまりました。24 手目 21 玉は発見できたので残念です。今回は角(馬) 追いでしたね。

4 番 強欲協力詰 73 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				飛			角	角	二
糸			王		入	入	糸		三
龍								入	四
金		銀	銀	歩	金	金	と	糸	五
	桂					入	入	銀	六
		糸	糸	糸	糸	桂	銀	入	七
歩	桂						歩	金	八
桂		香	香	香	香			歩	九

持駒 なし

93 龍 52 玉 43 龍 同玉 33 角成 同玉  
 23 角成 同玉 14 と 同玉 15 銀 同玉  
 26 銀 同玉 17 金 37 玉 36 金 同玉  
 37 歩 45 玉 47 香 55 玉 57 香 65 玉  
 67 香 75 玉 77 香 86 玉 96 金 77 玉  
 78 歩 67 玉 68 歩 57 玉 58 歩 47 玉  
 48 歩 37 玉 38 歩 28 玉 29 歩 38 玉  
 39 歩 48 玉 49 歩 58 玉 59 歩 68 玉  
 69 歩 78 玉 79 歩 88 玉 89 歩 98 玉  
 97 金 99 玉 98 金 89 玉 88 金 79 玉  
 78 金 69 玉 68 金 59 玉 58 金 49 玉  
 48 金 39 玉 38 金 29 玉 28 金 19 玉  
 18 金引 まで 73 手

★ FM の解析数はここからぐんとアップして 1986397 となります。初形から大駒 4 枚を捨ててスタートし手が止まるのは 15 手目。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
金		銀	銀	歩	金	金			五
	桂					入	王		六
		糸	糸	糸	糸	桂		入	七
歩	桂						歩	金	八
桂		香	香	香	香			歩	九

持駒 歩7

★ 作意は 17 金ですが、36 金以下結構紛れがあります。17 金、37 歩のところで 27 金と歩を節約して進めると実は詰みません。また左に追い 31 手目 78 歩に対し 88 玉とし 96 金で右に追う筋もありますがこれも不詰。作意は左右の金を最後の最後に動かすのが正解となります。完全な軌跡でえはありませんが 2 往復半の玉の旅でした。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							金	金	八
								王	九

持駒 なし

占魚亭

玉の軌跡が素晴らしいですね。今回の 5 作の中で 1 番好き。

橋本孝治

今回はこれが一番難解でした。まず、15 手目右辺での折り返しから悩ましい。左辺の金の追い方と、大量の歩の使い方で様々なパターンがあり、どの組み合わせが最適か分からず、何回も右往左往させられました。結局詰上りを想定して解いたのですが、左辺の金をすぐ投入せず、最後に一気に寄せていくとは意外です。

隅の老人 B

感想 一瞥、駒配置、特に最下段に並んだ攻方の4香を見て、これは趣向作、どんな趣向が楽しめるかな、です。「強欲詰」らしい手を続けて王を右辺、そして左辺と追います。21手目から並んだ最下段の香が活動。続いては、手に入れた歩を連打して、再び王を右辺、そして左辺へ。最後は金を使って8枚並んだ歩を王に取らせての終局。趣向入りの煙詰、楽しい解図の一時でした。たくぼんさん、ありがとう。

井上順一

最初に大駒を全部捨ててしまっって小駒だけで煙るのはみごと。異なる段を左右に2往復する玉の動きがおもしろい。

変寝夢

19手目の37歩が見えず、16手目同玉などの紛れに飛び込んでしまいました。並び歩の趣向は分かっていたのですが。今回の5作の中では一番解きやすそうなイメージです

5番 強欲協力詰 81手

											一
				銀		ス	龍				二
銀	香					ス	と				三
		歩									四
					玉	桂	と				五
歩	香							歩	歩		六
角	香	香	歩	歩	歩	歩	ス				七
	香	香	香	香	香	香	龍	香			八
金	ス	王	桂	桂	香	香	桂				九

持駒 なし

- 88角 同と 89金 69玉 79金 59玉
- 69金 49玉 38龍 同と 59金 39玉
- 49金 29玉 39金 同玉 29金 同金
- 17角 28飛 同角 同玉 18飛 37玉
- 38飛 47玉 48飛 57玉 58飛 67玉
- 68飛 77玉 78飛 87玉 88飛 96玉
- 86飛 同玉 75銀 同玉 84銀生 74玉
- 73銀成 同玉 33龍 同と 63銀成 同玉
- 53金 同玉 43桂成 同玉 33と 同玉
- 34歩 43玉 44歩 同全 33歩成 同玉
- 34歩 同全 同と 同玉 35歩 同玉

- 36歩 26玉 27歩 36玉 37銀 27玉
- 28歩 同金 同銀 16玉 17歩 26玉
- 27銀 17玉 18金 まで 81手

詰上図

											一
											二
											三
											四
											五
											六
								銀	王		七
									金		八
											九

持駒 なし

★ 解析数は何と 8603834。下段での序がメインの作品。序の15手目の39金～29金と角の打ち場所を作る手順と角打ちに対する飛合は作者も惚れ込んだ順です。創る側の話をすれば実はここから順算+逆算で煙らせました。29金を取って収束する形を考えて前からと後からを合体させる創り方でした。解析数が多いのは合駒選びがある為でしょうか。

占魚亭

七～九段目の塊を崩す前半が面白かったです。

橋本孝治

4番ほどではないですが、これも結構難解。15手目から19金、同金、39金…と進める紛れに誘われました。たった一路の違いが大違いで、歩が足りなくなるんですね。息の長い伏線は長編の醍醐味です。

隅の老人 B

5番目も煙、年賀の煙もあるし、これで、たくぼんさんの「強欲煙」は幾局目？になるかな。閑話休題、序に手に入れた6枚の歩の使い方はで、興味津々。46手目で竜が消えてからは、小駒だけの巧妙な攻防戦が続く。最後は奪った金を使っての終局、上手いものです。

変寝夢

15手目の39金で終了でした。これは見えないなあ。38から88までは金でいくも

のと即決したので。金で追うと96玉ですぐ切れるのは後で分かりました。

【総評】

占魚亭

手強いものが多かったですが、いい作品ばかりで楽しかったです。

- ★ いつも橋本さんが1番乗り解答なのですが今回は占魚亭さんが1番でした。

橋本孝治

今回も手順が良く練られていて、適度な考え所がある作品ばかりで楽しませて貰いました。序盤や中盤に伏線を張っている作が多かったので、何度も最初から並べ直す事態に陥りましたが、これも詰将棋（特に長編）を解く楽しみの一つ。ストックが溜まったら、またこうした作品を見せてください。

- ★ いつも橋本さんを意識して創っているので慣れない人には難しかったのかな。解答者数が伸びませんでした。次回からは1題ずつにしてたくさんの人に挑んでもらえるようにしようと思います。

隅の老人B

1月のある日。B爺さんは今日も暇。ふと目に付いたホームページのたくぼんさんの「強欲協力詰」。今日は、この作品の解図で暇を潰そう。手を出したのは良いけれど、これがなかなか解けません。この分なら、これで幾日かは暇が潰せるぞ、暇な爺さん、こんな思いでの解図です。

追伸

年賀詰1 92金打、迄

年賀詰2 49金、迄

この2図も楽しく解図。

特に2番のW趣向には感心しました。

- ★ 年賀詰も解いてくださりありがとうございました。おもちゃ箱の年賀詰投票で強欲煙が6位という結果に驚きつつ、ぼちぼち市民権を得てきたのかなと喜んでおります。ちなみに1位は橋本さんです。さすがです。

井上順一

他のも手をつけてはみたのですが、手が続いたのはこれだけ（4番）でした。

- ★ 1題だけの解答ありがとうございました。全題解けないと解答しない人は多いと思いますので感謝です。

変寝夢

1問ぐらいはと思ったのですが、ボウズでした。趣向のタネがよく尽きないものと思います。次回も期待しています。

- ★ 解いている経緯などよく分かり参考になります。

強欲な世界PART 5

題数が多くて解答期間が1ヶ月だとしんどいと考えて今月より小出しにすることにしました。

解答宛先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

解答締切：2016年3月15日（火）

たくぼん作 強欲協力詰 73手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	と								
二	歩									
三	飛	入			と					
四	銀		歩	歩	香			角		
五	王	香			歩	香	角	銀		
六	香					歩	飛			
七		香	香	金	桂	入				
八		香	銀		桂	香	歩	歩		
九			入	銀	香	桂	桂	香	歩	

持駒 なし

たくさんの解答をお待ちしております。

# 推理将棋第97回出題解説

担当：NAO

出題：平成27年12月24日

解答締切：平成28年1月20日

年賀詰特集の前半4題、例年に比べてやや難しめの中級が並びましたが楽しんでいただけましたか。解答者数は22名、年始としてはまずまずです。

97-1 中級 はなさかしろう 作 指し初め\*2016\*二番 11手(2解)

「あけましておめでとうございます！指し初めに来たよ」

「謹賀新年！ではさっそく、振り初めを…。一局目は君の先手だね。恒例どおり、元日にちなんだ11手で詰みにするとして、今年の味つけはどうする？」

「2016年だから・・・11手だと先手は6手指すので、それぞれの手の着手点の筋と段を示す数を全部掛け合わせたら2016になるように指してみようかな」

「なるほど。棋譜表記が同の手の場合でも、同じ着手点に何回か指した場合でも、一手ごとに着手点の筋と段の数を出して、得られた12個の数の積を2016にすることにしよう」

「うむ…… いざ参る」

「よし来た、アシストは任せてよ」

「これで11手目、先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016になって詰んだね」

「玉を寄る手に対して成る手で応じていたけれど、結局成る手はその一手だけだったね」

「今度は君の先手だよ」

「うむ…… アシストは頼んだよ」

「これで11手目、先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016になって詰んだね」

「今度も玉寄りに対して唯一の成で応じたけれど、手順は一番目と違っていたね」

「二番とも狙い通りで、幸先良いね」

さて、指し初めの二番とはどんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- 1) 11手で詰んだ
- 2) 先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016 ※
- 3) 玉寄りに対して唯一の成で応じた以上の条件を満たす手順が2通り

※本問では、棋譜表記が同の手の場合も着手点の筋と段を示す数をカウントしますし、同一地点に複数回着手があってもそれぞれ別個にカウントします。例えば、▲2六歩△4二玉▲2五歩△2四歩▲同歩△3二玉▲2五飛△4二飛▲2三步成まで9手で詰みの手順の場合、先手の着手点は26～25～24～25～23ですので、着手点の筋と段を示す数の積は $2 \times 6 \times 2 \times 5 \times 2 \times 4 \times 2 \times 5 \times 2 \times 3 = 57600$ です。

出題のことば(担当 NAO)

3手目迄は必然手。1筋と1段目の上手な使い方を推理しよう。

追加ヒント

初手76歩～3手目22角不成は必然手。 $2016 = (7 \times 6 \times 2 \times 2) \times 12$ であるので、先手の残り4手の筋と段の積はわずか12。一局は(11,12,13,21)、もう一局は(11,11,22,31)の組み合わせから手順を推理する。

A:

▲7六歩 △3四歩 ▲2二角不成 △4二玉  
▲1二角 △3二玉 ▲1一角成 △1四歩  
▲1三香 △4二飛 ▲2一角不成  
まで11手。

(条件)

- 先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016  $(7 \times 6) \times (2 \times 2) \times (1 \times 2) \times (1 \times 1) \times (1 \times 3) \times (2 \times 1) = 2016$
- 玉寄りに対して唯一の成で応じた6手目より△32玉 ▲11角成

B:

▲7六歩 △3四歩 ▲2二角不成 △3三桂  
▲1一角不成 △2二飛 ▲同角不成 △5二金左  
▲1一飛 △4一玉 ▲3一飛成  
まで11手。

(条件)

- 先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016

$(7 \times 6) \times (2 \times 2) \times (1 \times 1) \times (2 \times 2) \times (1 \times 1) \times (3 \times 1) = 2016$

- ・玉寄りに対して唯一の成で応じた  
10手目より△41玉 ▲31飛成

詰上り図 A

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	角	飛	龍		王	龍	角	馬	一
					王	龍			二
香	香	香	香	香	香		香	香	三
						香		香	四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 桂

詰上り図 B

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	角	飛	龍		王	龍			一
				王			角		二
香	香	香	香	香	香	香	香	香	三
						香			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角銀香

年賀詰の一問目は、「2016」が一桁の素数に因数分解できることに着目し、指し手の筋と段を関連づけた作品。先手着手地点の組み合わせは限られています、具体的な詰手順を探り出すには骨のある本格推理問題となっています。

2016 を素因数分解すると、 $2016 =$

$(2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2) \times (3 \times 3) \times 7$  です。これは一見大きい数字のようでも、先手の着手点6手分の筋と段を示す数の積としてはかなり小さい数字です。

- ・5を含まないため5段目着手が不可。序盤は、角道を空けて角が飛び込むしかない。初手から「▲76歩 △34歩 ▲22角不成」までは必然。 $2016 = (7 \times 6 \times 2 \times 2) \times 12$  であるの

で、先手の残り4手の筋と段の積はわずか12。

- ・着手点の筋と段の積が12となる4手の組み合わせは、

$(11, 12, 13, 21), (11, 12, 12, 13), (11, 13, 21, 21), (11, 12, 21, 31), (11, 12, 12, 31), (11, 21, 21, 31), (11, 11, 13, 22), (11, 11, 22, 31), (11, 11, 13, 14), (11, 1, 1, 13, 41), (11, 11, 14, 31), (11, 11, 31, 41), (11, 11, 12, 23), (11, 11, 12, 32), (11, 11, 21, 23), (11, 11, 21, 32), (11, 11, 12, 16), (11, 11, 12, 61), (11, 11, 16, 21), (11, 1, 1, 21, 61)$  等。11地点の着手数は1回か2回。

- ・11地点を1回だけ使う場合、12地点を2回使う順や21地点を2回使う順は手が繋がらず失敗。12と21を1回ずつ使えば、先手12角～21角+後手42玉～32玉の筋がある。11角成は玉寄りの後に入れると、4手目以降「△42玉 ▲12角 △32玉 ▲11角成」以下、21角 42飛で詰む形。余した残り"3"を使うため13地点に遊び手の香打を入れる。8手目以降「△14歩 ▲13香 △42飛 ▲21角不成」まで。これが一つ目=A局の手順。

- ・11地点を2回だけ使う場合、14,16,23,41,61を使う順は11地点との関係が悪く手が繋がらない。二つ目の手順は後手が協力して22地点で飛を渡す手順：先手11角～22角～11飛～31飛+後手22飛～41玉の筋で進めるが、22飛の前、詰形の準備で後手桂を跳ねておく。4手目以降「△33桂 ▲11角不成 △22飛 ▲同角不成 △52金左 ▲11飛 △41玉 ▲31飛成」まで。=B局の手順。

- ・他のきわどい筋："玉寄り"と"唯一の成"の条件がなければ、33玉型に11馬で詰ます手順(76歩 34歩 22角不成 32銀 13角不成 42玉 12角 33玉 21角成 42飛 11馬)や居玉を31飛成で詰ます手順(76歩 34歩 22角不成 33桂 11角成 12飛 同馬 52金左 21飛 62金上 31飛成)がある。

それではみなさんの短評をどうぞ。

はなさかしろう(作者) 「今年は掛け算を使う千載一遇のチャンス。しかし、まず「後手は足して28」には届かず。完全2解(どちらの手順に対しても、もう一方の解手順を除けば条件が必要十分になっている)も

惜しくも成立せず（3 1 飛成までの順は「玉を寄った／成1回」が必要十分ですが、2 1 角不成までの順は「玉寄りに対して唯一の成で応じた」が必要）。というわけで、フロンティアを残しつつ、本年もよろしくお願い申し上げます」

■今年も気の利いた構想作のご投稿をよろしくお願ひします。

たくぼん 「積が 2016 なんて条件で創ろうと思う発想が素晴らしい。飛を取る方の手順の方が時間がかかりました」

小山邦明 「2016 を着手点としてうまく分解して面白い手順ができていると思いました」

金少桂 「2016 が 5 で割り切れないので歩、桂の出動が不可、飛も難しそうなので角が出動するんだろうなあというところまで一目。初手 76 歩とすると  $2016 \div (7 \times 6)$  で残り 48。ほぼ右上だけでのやりとりがわかるので、21 角生までの方は比較的すぐ見つけたが、2 つ目の解答が見つからない。飛を奪って使う方は追加ヒントを見てようやく見つけました。11 に 2 回も着手するとは。にしても、2016 の素因数が全て 1 桁で、よく割り切れるからこそこの問題。次にこのネタを使えるのはいったい何年後だろう」

■2016 が 7 以下の素数の積で表せることに気づいて作品化した目の付け所が素晴らしい。少なくとも西暦では当分の間使えないネタです。

DD++ 「13 香が出てこずに結構悩みました。76 歩に抵抗がかなりありますが、他はまずないので安心して掘り下げられますね」

■5 段目の手が指せないのが 16 歩はダメ。抵抗があっても 76 歩しかありません。

Pontamon 「何十年かぶりに素因数分解して、 $2016 = 2^5 \times 3^2 \times 7$  を算出し、1 筋と 1 段目も含めて着手可能な地点の組み合わせを全て洗い出してから、出題のことばに気付く。確かに 3 手目までは必然で、残りは 2 が 2 個と 3 が 1 個。あと 4 手指さな

ければいけないのだから 1 段目か 1 筋の手を絡めるしかなく、ひとつ目(A局)の手順は瞬殺。本当に今回の最難問なのかと思ったら、ふたつ目(B局)が判らない。確かに難問でした」

NNN 「2 つ目(B局)は実力がはっきり表れそう。私はヒントなしで分からなかったですね」

■2 解は、全く異なる形なのでどちらか一方に気づいてももう一方の解は連想しづらいです。どちらが難しいか？ B 局の方を難しく感じられた方が多数派でした。

諏訪冬葉 「(A局)まさか無駄手が入るとは。(B局)11 に 2 回指す順は絶対最終手▲11 角だと思っていました」

山下誠 「A局は 1 四歩、B局は 3 三桂が面白い深い。2 0 1 6 は不思議な数だと改めて思いました」

■無駄手の 13 香を指させる後手の 14 歩がいい味でした。

小木敏弘 「(B局)3 3 桂の味が好きです。(A局)今回一番考えました。3 1 ではなく、1 3 でしたか。」

隅の老人 B 「(A局)無駄手？の 13 香打を見落として 9 手で終わり。奇妙？で長考。(B局)こちらは意外と簡単に攻略。33 桂跳びが鍵でした」

■22 飛の経路を残しながらの有効な協力手が 33 桂跳ね。

波多野賢太郎 「いきなり難問でかなり悩みました。先に分かったのは角打の方でしたが、1 三香がなかなか浮かびませんでした。もう一つの解は、なんとなく飛車を取るんだろうとは思いましたが、2 二で取って 1 一飛打とはなるほどなあと思えました。面白い条件で、しかも全く異なる二通りの手順が現れて、年賀作としてもぴったりの素晴らしい作品だと思えました」

飯山修 「(B局)直前ヒントをみても全然わからず。11→31と指せる手がないとダメと判ってやっと飛に手がのびました。2016年にふさわしい良問。11手は奥が深い」

攻めダルマン 「(A局)ヒントみてなんとか。将棋数学パズルですね。この手順は比較的早くいけた。(B局)11に飛車を打つと気づくまでに時間がかかりその手順も思いつきづらかった」

S.Kimura 「詰み形が見えず、最後に解けたのがこの問題でした。13香と、11飛から31飛成が、なかなか浮かびませんでした」

占魚亭 「(A局)21馬までと決め打ちして苦戦しました。(B局)飛車を取ることに気付くまで、かなり時間がかかりました」

■33桂の後に11飛～31飛の組み合わせが妙に浮かびづらい形です。

斧間徳子 「4手目33桂が見えず、久々の直前ヒント待ちになってしまいました。2016を因数分解する突飛なアイデアも感心しましたが、『2解』という出題法は余詰対策を放棄したとも取られかねず、好きになれませぬ」

■2解求める問題は好みもありますが、本問は、異なる手順で2局分楽しんでいただきたい。

渡辺 「これは少し骨です。最初の3手が76歩、34歩、22角生で決まっています、先手の残り4手が「11,11,22,13(or31)」「11,12(or21),12(or21),13(or31)」「(または一応「11,11,12(or21),23(or32)」)で詰む形になる手順を順に調べれば良いのですが…。私がこのアイデアを持っていたらもっと易しく9手にして76歩、34歩、22角生、12香、11角打、42玉、31角生、32玉、22角右成で作るかと思います。2016は既に入っているし11を主張したければ11角打もあるので…」

孔明 「素因数分解して1つ目の手順はすぐにわかったのですが2つ目の手順(B局)に

手こずりました。1一への着手を2回もするのが難しく、▽2二飛と飛車を取らせる手が見えるまで全くわかりませんでした。

※余談 9手で積が2016の手順を発見して思考の邪魔をしました(笑)。

手順:▲7六歩▽3四歩▲2二角不成▽1二香▲1一角打▽4二玉▲3一角不成▽3二玉▲2二角右成まで。これはこれでなかなか面白い手順です」

■味を付けて11手詰にするのがはなさか流。渡辺さん、孔明さんのご両名からは9手詰のご提案。確かに2016と11が入るすっきりした年賀詰です。9手詰1解を求める問題なら「玉寄りに対して唯一の成で応じた」は余詰があり、代わりに条件をどうしましょうか。

正解:21名

飯山修さん S.Kimuraさん NNNさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダルマンさん 占魚亭さん たくぼんさん DD++さん テイエムガンバさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamonさん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

## 97-2 中級 Pontamon 作

### 豪勢な詰め 12手

「おっ、年賀状か。推理将棋も付けるんだ」「新年は2016年だから、16地点の駒を動かす手がある12手だよ」

「前年の元旦には”駒打ちは1回だよ”って電話して来たけど、これは大丈夫？」

「”1”の条件をたくさん付けたから、多分、大丈夫だと思うよ」

「どんな条件？」

「まず、詰んだ玉は一人ぼっち」

「何それ？」

「玉の周りの8マスに駒が無いってことさ」

「あとは？」

「駒成りは1回で、歩の着手は1回だよ」

「一人ぼっちだとか1回きりだとか、何か寂しい感じだね」

「いや、詰み上がりを見てよ。豪勢な感じの詰みだろ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・12手で詰んだ
- ・16地点の駒を動かす手があった
- ・詰んだ玉は一人ぼっち(玉の周り8マスに駒は無かった)
- ・駒成りは1回
- ・歩の着手は1回

出題のことは(担当 NAO)

一人ぼっちの玉が詰む形を推理しよう。

追加ヒント

16地点に打った駒は2回動く。都詰。

推理将棋 97-2 解答 担当 NAO

- ▲7六歩 △3二飛 ▲3三角不成 △同 飛
  - ▲6八玉 △1六角 ▲7七玉 △2五角
  - ▲6六玉 △4七角成 ▲5五玉 △3五飛
- まで12手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二								馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五				玉			飛			
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	金	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩

(条件)

- ・16地点の駒を動かす手(6手目△16角～8手目△25角)
- ・玉の周り8マスに駒は無かった(終図の55玉)
- ・駒成りは1回(10手目△47角成)
- ・歩の着手は1回(初手76歩)

年賀詰の二問目は、一人ぼっちの五段玉を捕らえる12手詰の作品。狙いは飛角の両王手で5五の玉を仕留める都詰です。16地点に打つ角の活用が“豪勢な詰み”を演出する鍵になります。

12手詰では先後とも着手は6手ずつ。

・周り8マスに駒がない“一人ぼっち玉”とするため、先手は五段目への玉移動に4手を費やし残りの2手を協力手に費やす。

歩の着手は1回だけ。中段への玉経路を作るため▲76歩と角道を開ければ▲33角を捌いて後手に協力できる。玉は77を經由して移動するが76歩と離れた五段玉は5筋しかなく、玉の経路は68～77～66～55に決定。

・後手は歩を突けないので2手目△32飛～33同飛と飛を活用。先手玉が角道を移動するため22角の効きは止めておく。

初手から「▲76歩 △32飛 ▲33角不成 △33同飛 ▲68玉」

・先手55玉+後手22角-33飛の形は両王手△35飛の決め手が見えている。55玉の六段目の退路は46と56の2箇所あり、後手は入手した角を活用して塞げばよい。角はお題の16地点に打ち、25を經由して47に成る。

6手目から「△16角 ▲77玉 △25角 ▲66玉 △47角成」

・47馬に退路を塞がれた玉は飛角の両王手で詰まされる。

10手目から「▲55玉 △35飛」まで。

一人ぼっち玉の詰形は、馬を含め大駒3枚による豪勢な都詰でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon(作者) 「初期配置の歩の効きを生かして、玉の筋の7段目の馬に5段目の飛の形や玉の筋の3段目の桂に7段目の龍など2枚の攻め駒で詰む形があるのに、大駒3枚での豪勢な攻めと言うべきか効率が悪い攻めと言うのが正しいのか…」

■飛角両王手の馬付き都詰とは豪勢で贅沢な詰み。手数が長ければいろいろな形があるでしょうが、11手なら7段目馬と5段目飛の組み合わせに限られますね。

渡辺 「5段玉を飛の横利きで詰めるのが第一感で最初の3手は(成不成以外は)決定。4手目同角だと次に角を退かさないと先手玉が上がれないので16を指す暇がない。(以下68玉、24角、77玉、74角、66玉、57角(成)、55玉、35飛で16が指せない)同飛から最後35飛と出ることになれば66は角が押さえているので47馬を作る順を考えれば良い。ところで『16に着手した』だと余詰でしょうか？」

■△33同角～△24角とすれば先手の77～66の玉移動が可能です。

『16に着手した』ならば「▲76歩 △32飛 ▲33角不成 △同角 ▲68玉 △24角 ▲77玉 △16角 ▲66玉 △57角成 ▲55玉 △35飛」の詰みあり。この手順でも16角は全くの無駄手になります。

はなさかしろう 「大駒をふんだんに使って、まさしく豪勢な都詰め。辺地に打つ16角のやりくりが面白いです。渡辺さんのコメントにあった、盤の隅・辺を利用した別解も探してみましたが見つからず。ぼっち条件、応用がききそうです」

■条件変えれば15か95地点の“ぼっち玉”を詰ます手順もいろいろありそうです。面白い作品ができたなら是非ご投稿をお願いします。

小木敏弘 「歩が一手は大きなヒント」

DD++ 「36龍をおいて合い効かずかと思ったら、両王手の方でしたか。確かにこの条件だと73桂は跳ねづらい」

■後手は34歩も74歩も指せませんね。

NNN 「ヒント後に解き始めましたが、ヒントなしだと2筋の方で詰め上がりは浮かぶのでしょうか」

■25玉形が詰むのは至難の業。後手の攻め手が6手では全然足りません。

加賀孝志 「独りぼっちにさせないで」

諏訪冬葉 「周りに駒がないと聞いて両王手が浮かびました」

波多野賢太郎 「一人ぼっちの玉なら5五で両王手による詰上がりだろうと推測できたので、比較的すんなり解けました。豪勢な感じというのも思わず納得でした」

■周囲が8箇所も空いていると“豪勢な”大駒3枚の合わせ技が要ります。

飯山修 「今月の中で一番手を出しやすい作品」

隅の老人B 「王の周りに駒が無い？『ハハーン』、これは5段目だな。これで解決」

攻めダルマン 「ヒント出るまではまったく手が見つかなかった。ギブアップしようと思ったが条件がシンプルで何度も考えてしまった。傑作」

■都詰とわかってしまえば読みやすい。55玉の退路をどう塞ごうか？考えるだけでした。

小山邦明 「角打を年賀詰として16にうまく条件設定できていると思いました」

金少桂 「都玉を飛角のバッテリーを開いて詰ますのが直感ではあるけど、16の駒をどう役立てるのが難しかった。年賀たらしめる一番大事な部分が半遊び手とはまさかだった(笑)」

S.Kimura 「16地点の駒は飛車だと思い込んで、飛車2枚で仕留めようとしていました。47角成とするために16に角を打つという発想はしづらいですね」

山下誠 「先手玉は3三飛の陰で一直線に天王山を目指す。2五角の1回休みが気付きにくい妙手です」

斧間徳子 「歩の着手が1回で一人ぼっちで詰むことから、詰み形はすぐ見えるが、16～25～47角成の悠長な手順に妙味あり」

孔明 「1六から動かす手を▽2七角成だと想定してて少し悩みました。一度2五に戻してから成った方が早いというのが面白いです」

たくぼん 「47馬を設置するのに16から連れて来るとはいいアイデア。16という言葉なしで実現できれば難解だったでしょう」

■わざわざ2手掛けて47に成るところが年賀条件の16への角打とぴったり合致しました。25に引く手がいい味です。

正解：21名

飯山修さん S.Kimuraさん NNNさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 加賀孝志さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダルマンさん たくぼんさん DD++さん テイエムガンバさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamonさん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

97-3 中級 NAO 作  
2016の決め手 20手

「新年の指し初めはどうだった？君は後手番だったね」

「ああ、2筋の手を8回と1筋の手を1回指して勝ったよ」

「平成28年の元旦にぴったりだね」

「それだけじゃないよ。20手目16地点の着手が初王手で28の玉を詰ませたんだ」

「なるほど、2016の決め手で平成28年の玉を捕らえたってことか。今年はイケイケだね」

「イケイケGOGOじゃないけど、こっちが5連続で2筋に着手した後、相手も5連続で2筋に着手したんだ。不成の手も5回あったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？  
そして2016年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・20手目16地点の着手が初王手で28の玉が詰んだ
- ・後手は、2筋に8回、1筋に1回着手した
- ・後手が5連続で2筋に着手した後、先手が5連続で2筋に着手した

・不成の手が5回あった

出題のことば (担当 NAO)

28玉が16の手で詰む形を推理しよう。  
追加ヒント

11手目同玉に対し、12手目は角を打つ。

推理将棋 97-3 解答 担当 NAO

- ▲7六歩 △2四歩 ▲4四角 △2五歩
  - ▲2六角 △同歩 ▲4八玉 △2七歩不成
  - ▲3八玉 △2八歩不成 ▲同玉 △3八角
  - ▲2四歩 △2九角不成 ▲2三歩不成 △2四桂
  - ▲2二歩不成 △2三飛 ▲2一歩成 △1六桂
- まで20手

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	馬	と	香
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩
四										
五										
六			歩							桂
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩			歩
八								玉		
九	香	桂	銀	金		金	銀	馬	香	

持駒 角桂

(条件)

- ・20手目16地点の着手(△16桂)が初王手で28の玉が詰んだ
- ・後手は、2筋に8回(24, 25, 26歩, 27, 28歩不成, 29角不成, 24桂, 23飛)、1筋に1回(16桂)着手した
- ・後手が5連続で2筋に着手(24, 25, 26歩, 27, 28歩不成)した後、先手が5連続で2筋に着手(28同玉, 24歩, 23, 22歩不成, 21歩成)した
- ・不成の手が5回(27, 28歩不成, 29角不成, 23, 22歩不成)あった

年賀詰の三問目は、20手目の16地点の手で28の玉を詰ます、2016年と平成28年の双方に関連付けた担当の作品。28玉に16の手で初王手を掛けるとすれば、吊し桂か2筋に飛を置いて

の角の開き王手が有力なところ、意外な詰形が現れます。

・手順を推理する前に、まずは条件を整理します。

1. 20手詰は先後とも10手つつ着手。
2. 後手は、2筋の手が8回、1筋の手が1回、その他の筋が1回。ここで1筋の手は最終手の16地点に。前半に“後手が5連続で2筋に着手”するので、2～10手目は2筋。序の2、4、6手目は、24歩 25歩 26歩と進めるしかない。
3. 先手は、玉が28で詰まされるので玉移動に48～38～28の3手要す。また後手が5連続2筋の手を指した10手目の後、“先手が5連続で2筋に着手”するので、11～19手目は2筋の着手。
4. “5回の不成”は推理の鍵。後手は26歩の後、27、28歩不成と駒を取りながら2回の不成を指せる。不成を5回とするため先手も協力する。

・次に詰形を推理しましょう。

“28玉に16地点の初王手”で詰む形は、“単純な吊し桂”と“2筋に飛を置いて27角～16角不成の開き王手”が有力。前者は28玉周囲の退路塞ぎが難しい。後者は惜しい筋（たとえば、先手18飛-28玉+後手22飛-27角型から16角不成）があるものの、“11手目以降の先手着手が2筋のみ”、“不成5回”に阻まれて失敗。それでは他の詰形はどうか？

正解は吊し桂と開き王手を組み合わせ、“23飛-24桂型からの両王手”。

・“両王手”を実現するまでの手順を追っていきます。

手順の前半は後手が歩を突き進め、先手は26地点で角を渡して協力する。初手から「▲76歩 △24歩 ▲44角 △25歩 ▲26角 △同歩 ▲48玉 △27歩不成 ▲38玉 △28歩不成」ここまで、後手が2筋に5連続着手し、不成は2回。

後手が1手だけ指せる1、2筋以外の手は、桂を入手するため、38への角打ち。29桂を不成で取れば、18と38の玉退路を塞げる。後手

は入手した飛桂を2筋に打って両王手のお膳立て。先手は28玉以降2筋のみの着手、24歩打ちから歩不成の回数を稼ぐ。11手目から「▲28同玉 △38角 ▲24歩 △29角不成 ▲23歩不成 △24桂 ▲22歩不成 △23飛」ここまで、先手が2筋に5連続着手し、不成は計5回。

最後は飛桂の両王手。16地点の初王手で28玉を捕らえる。19手目から「▲21歩成 △16桂」まで。

それではみなさんの短評をどうぞ。

N A O（作者） 「飛桂の両王手の詰形が狙い。2筋に着手が集中するため、自然に手順を進めやすいと思いましたが、詰形が想定しづらく、意外な難問になりました。年賀詰なので、追加ヒントは、もう少しサービスした方がよかったかもしれません」

Pontamon 「16の着手で28の玉が詰むのは、16桂の合い効かずの形か16角での空き王手。16角の空き王手では縦横どちらからでも2筋の着手回数条件をクリアできず、16桂での単騎は先手の駒配置が無理。16桂単騎詰めと16角の空き王手の両方の手筋を使った両王手のすばらしい仕上がりに脱帽です。13手目の23歩で19手目に22へ桂は打てないので22角で限定されていて凄いと思ったら、フナリは5回だけ不成4回と歩成1回。13手目に歩を控えて打っての不成5回でした」

■“16の着手で28の玉が詰む”作品コンセプトは、Pontamonさんの16角の開き王手を主題にした投稿作品からいただきました。歩成4回なら23歩～21歩成や24歩～22歩成の後にと金を動かす手もあります。

小木敏弘 「16は角ではなく桂でした。“ふなり”は六回か・・・」

■19手目の歩成で6回の「ふなり」

たくぼん 「不成5回がなかなかの難条件。16角から考えてかなり苦労しました。桂と考えるからはすんなり辿り着きました」

■不成5回は余詰筋を絶つため。遊び手が入る20手詰では手段が多いです。

波多野賢太郎 「この問題も難しくて悩みました。指し手の筋がかなり限定されるので考えやすいと思ったのですが、序盤に角を飛び出すのと、詰上がりがなかなか浮かびませんでした。20手目、16の手で28玉を詰ますというのがまさに年賀作にぴったりで凄いなあと思いました」

■5手目に26角と指す基本？手筋を活用。

諏訪冬葉 「最終手▲16桂だけだと戦力が乏しいから両王手。“5連続”のヒントから12手目が2筋以外と読めたのでなんとか解決」

渡辺 「後手は2筋で歩銀飛桂を取り(先手のアシスト込み)、29銀、24桂、23飛と打ったあと16桂でぴったりなので2筋以外の着手と5回もある不成が何か最初の謎でした。角の方が(39を金で埋めなくて良いので)早いんですね。1筋を2回にしてくれれば少し易くなったと思います」

■詰形を築くだけなら、先手に遊び手が多い手順。2筋着手と不成回数で選択肢を狭めました。ご指摘のとおり、年賀詰でなければ1筋2回(18角～16桂)とするところ。2筋8回と1筋1回がぴったりでしたので。

孔明 「最初は単純な▽1六桂までの吊し桂での詰みを考えましたが桂を渡しつつ1七と1八を塞ぐ手順が難しく、さらに▽1六角までの開き王手が見えたので吊し桂は畏だと思い早々に読みを打ち切りました。そして▲7六歩～▲4四角～▲2六角で角を渡す手順があまりにも綺麗だったので▽1六角までの開き王手を本線に考えて泥沼にハマりました。この手順を無視して▲1八飛を入れると惜しい手順が2つ見つかったんですが5回の不成や先手の5連続2筋の手が達成できず諦めていました。ヒントを読んでも開き王手の路線から抜けられなかったんですが▽3八角から桂馬を取りに行く手が見えてようやく▽1六桂までの両王手に気付きなんとか解けました」

小山邦明 「両王手の収束を16と28の配置という事でうまく着手限定できていると 思いました」

はなさかしろう 「97回の最難関、裏推理に頼りっぱなし。▲18飛車ー28玉形を△16角(馬)の空き王手で詰ますのが本命でしたが、はずれ。迷走するも、後手の2筋でも1筋でもない手を当てに行ったのが効を奏してくれました。年賀要素満載で今年もGo! Go! Go! ですね」

斧間徳子 「※序の10手は裏読み(手順を限定できる順)で見当がつくも、その後、第一感の27角～16角生の開き王手は、18玉で捕まらない。38角～29角生と桂を取る手が思いつきにくかった。手順がうまく限定されている佳作」

■27角～16角不成で詰む筋は、みなさん第一感の大本命手順。先手の遊び手を2筋に限定して防ぎました。

DD++ 「16角で38を封じつつ合い効かずかと思ったら、両王手の方でしたか(新年2回目)。18手目22飛でいいところをわざわざ23飛と打つのが不思議な手」

山下誠 「2二ではなく、2六で角を渡せることに気付いて、やっと解けました。8二飛は、何と不動駒だったんですね」

■詰みと関係がある2筋。11手目以降先手着手を2筋に限定して、後手に23飛を打たせました。

NNN 「よく見れば分かるのですが、16地点というのが、1六なのか16箇所なのか曖昧で困りました。15箇所はいけるけど、、、」

■推理将棋では「XX地点」は盤面の位置を示しますので、曖昧ではありません。着手した場所の数を示すときは、ご指摘のように「XX箇所に着手した」と表記します。

金少桂 「先手の2筋着手条件と不成回数の条件で後手の桂、飛を打つタイミングや場所が限定されるのがうまいなあとと思う。“後手は、2筋に8回、1筋に1回着手した”この条件、後

手の手が1回余ってるのに最初気づかず、まるで解けずに焦ったのは私だけだろうか」

■後手の着手は10回。“他の筋が1回”は明らかなので省略しています。

隅の老人B(無解)「解けません、残念。」

S. Kimura 「ヒントを見て、先手の角を取らせに行くことが分かりましたが、その後の手順も、相当に見つけづらかったです。22歩を飛車で取っても良いところを、取らずに打つとは思いませんでした」

飯山修 「直前ヒントで角を打つ前までは判ったが1回しか指せない1・2筋以外の手がここに来ると考えが及ぶのに一苦勞。解答者を減らす問題になりそう」

■追加ヒントで「角打の場所」と「両王手」も明かすべきでしたね。

正解：17名

飯山修さん S. Kimuraさん NNNさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 諏訪冬葉さん たくぼんさん DD++さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamonさん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

97-4 中級 渡辺秀行 作  
推理敵からの年賀状 27手

「去年の年賀状を整理していたら、あいつからの年賀状が見つかったよ」

「ふむふむ、確かこんな問題を出題してきたなあ。どれ、見てみるか？」

<簡条書条件を見せる>

「今年の年賀はそれをちょっと変えて出してやったんだ」

「俺の作った返しも見せて欲しいだって？まあ、そう慌てるでない」

<簡条書条件>

- ・27手で詰んだ
- ・先手はある端歩を6連続で動かした後、ある端香を8連続で動かした

- ・駒成は不成だと反則になる場合だけ
- ・後手は、唯一の金の着手である金を寄る一手を除いて駒を安い順(※1)に指した
- ・後手は、同種駒に関しては9筋から1筋へ向う順に着手して行った(※2)

(※1)歩と香杏桂圭銀全金角馬飛龍玉の順  
(※2)同じ筋に連続して着手するのは良いがより9筋側に着手してはならない。

例えば7筋に桂を着手すると、それ以降8筋9筋に桂を着手する可能性はなく、7筋に桂を着手する可能性はある。もちろん駒種が銀などに変ればまた9筋から着手しても良い。

出題のことば(担当 NAO)

8回目の端香の手で詰む形を推理しよう。

追加ヒント

最終手11香成の支え駒は88の角。角道を通すため後手が協力する。

推理将棋97-4 解答 担当 NAO

- ▲1六歩 △7四歩 ▲1五歩 △7五歩
- ▲1四歩 △7六歩 ▲1三歩不成 △7七歩不成
- ▲1二歩不成 △7八歩不成 ▲1一歩成 △3四歩 ▲1八香 △1三桂 ▲1七香 △3二銀 ▲1六香 △1一角 ▲1五香 △4二玉 ▲1四香 △3一玉 ▲1三香不成 △2一玉 ▲1二香不成 △3一金 ▲1一香成 まで27手

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	桂	銀	香			香	王	杏	
二		飛					銀			
三	歩	歩		歩	歩	歩		歩		
四							歩			
五										
六										
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八		角	歩					飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂		

持駒 角桂香歩

(条件)

・先手はある端歩を6連続で動かした(17歩：▲16歩～▲11歩成)後、ある端香を8連続で動かした(19香：▲18香～▲11香成)

・駒成は不成だと反則になる場合(11手目▲11歩成、27手目▲11香成)だけ

・後手は、唯一の金の着手である金を寄る一手を除いて駒を安い順に指した(74～34歩→13桂→32銀→11角→42～21玉→31金)

・後手は、同種駒に関しては9筋から1筋へ向う順に着手して行った(74, 75, 76, 77, 78, 34歩、42, 32, 21玉)

年賀特集前半の最後は、前年の27年を主題とした11で詰む中編の年賀推理。新年の年賀推理(後半出題の98-3)への伏線にもなっています。着手駒が限定されているので方針が立てやすく、長い手数でも簡単に解ける構成です。

まず、条件から詰型を推理します。

・27手詰の先手着手は14回。先手が動かせるのは端歩1枚と端香1枚の2枚だけ。取った駒を使うこともないので、最終手の香成を支える形は、初期配置の88角の効きに11香成で詰む形を目指す。

・先手のある端歩は“17歩”、ある端香は“19香”に確定。先手は「16歩 15歩 14歩 13歩 12歩不成 11歩成」と端歩を6連続で動かした後、「18香 17香 16香 15香 14香 13香不成 12香不成 11香成」と端香を8連続で動かす。ここまで、先手の全手順が判明。

・後手は、安い駒から順に使うが、先手の88角の効きを11まで効かすため77, 33, 22地点を空けて協力し、11香成で詰む形の21玉型を目指す。77, 33地点を空けるのは一番安い歩。「74歩 75歩 76歩 77歩 78不成 34歩」の順に指す。初手から「▲16歩 △74歩 ▲15歩 △75歩 ▲14歩 △76歩 ▲13歩不成 △77歩不成 ▲12歩不成 △78歩不成 ▲11歩成 △34歩」

・後手の着手13手のうち、ここまで歩の手が6手。詰位置の21までの玉移動には3手必要。残り21玉の退路を塞ぐだけなら32金か32飛の1手で済む形だが、玉移動の後に指せるのは、“唯一の金の手”で金が寄る手。21玉の後、31金と指せるよう、銀金を各1手ずつ動かし、32銀～21玉～31金の形を目指す。残りの後手の手が2手残っているが、詰みには邪魔な22角と21桂を移動する手に各1手ずつ使えばよい。歩の後、桂→銀→角→玉の順に動か

す。13手目から「▲18香 △13桂 ▲17香 △32銀 ▲16香 △11角 ▲15香 △42玉 ▲14香 △31玉 ▲13香不成 △21玉 ▲12香不成」後手は最後に“唯一の金の手”で31金と寄る。26手目から「△31金 ▲11香成」まで。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺秀行(作者) 「他の3問に比べて圧倒的に簡単でしょう。先手の手は決まっているので、後手は77と33を空けて玉を21に運び、壁を作れば詰の完成」

NNN 「条件がややこしそうですが、実際には紛れは少なく、詰み上がりも想像が難しくなさそうなので、初級に近いかもしれませんね。楽しく解けました」

たくぼん 「後手の手だけ考えればいいので、楽しく解図できました」

波多野賢太郎 「27手という手数とあまり見慣れない条件に、難しそうだと思いましたが、先手の手がほぼ限られていたので意外と考え易かったです。でも、これだけの条件で後手の手がきっちり限定されているのは凄いなと思いました」

■先手の2枚の駒の着手が決まっているので、導かれるままに楽しく解ける中編の易問でした。

斧間徳子 「後手の74歩～78歩生が絶妙の好手順」

金少桂 「手数の長さで一見よくわからない強烈な条件にびっくりしたが、冷静に考えればそこまで身構えなくてもよいことがわかり一安心。歩の手がひたすら並ぶ前半の棋譜がユーモラス」

■先手は1筋、後手は7筋。我が道を行く歩突きです。

Pontamon 「同種駒の条件があったので、77の歩を取るために93桂から跳ねて行くと同玉が必要で駄目で、飛が出て行くと1手間に合わ

ず。素直に後手の7筋の歩を進めて正解に辿りつきました」

■桂で77をこじ開ける手順はうまくいきません。93桂～85桂～77桂とすると、69桂成が王手で失敗。89桂成は“同種駒は9筋から1筋へ向う順”に合致せず。また、飛を使う84歩～85歩～84飛～74飛の順は角道空けるまで6手要し手数超過。地道な歩突きが間違いない。

DD++ 「なんとなく香の通り道に駒を置くのに抵抗があって13桂がすごく指しにくかったです」

飯山修 「詰み形はすぐ決まるのでいかにして27手でおさめるか。11角13桂に気づけば1直線」

■邪魔駒は先手駒の通り道に捨てます。

山下誠 「先手の手は全て必然に近いので、8八角が主役と気付けば簡単。しかし、気付かなければ永久に解けません」

■支え駒は何か？考えればわかるはず。

小木敏弘 「王様が通ってから門を閉める金」

諏訪冬葉 「先手の手が全部確定したのであとは角道を何とかするだけ。金の条件を見落として相当迷いました」

■金の条件が変則的。見落とされた方々がおられました。

隅の老人B(誤解) 「手順が長くて後手の駒を動かす順番が面倒。順番が間違っているけど最終図は合っていますね」

■4手目に銀、6手目に玉を動かす手順をいただきました。手順前後の誤解は残念。最終形は合っているだけにもったいない。

小山邦明(誤解) 「最後にぴったり先手の手が間に合っているのが不思議な気がしました」

孔明(誤解) 「最後▲1一香成で詰ますためにヒモが付いてないので先手の角筋を後手に開け

させる手順を考えてたら解けました。この問題が一番簡単でした」

S. Kimura(誤解) 「ヒントなしで解けた、唯一の問題です。77の歩を取るのが、角ではなくて、歩だったところが意外でした」

■小山さん、孔明さん、Kimuraさんの3名からは、16手目△42金以下の解答をいただきましたが、残念、誤解です。“唯一の金の着手・・・”の条件から、金の着手は26手目△31金の1回限りです。条件文には十分ご注意ください。

4題中1番の易問かと予想しましたが、結局正解者数が1番少なかったのが本問でした。

はなさかしろう 「意外なほど遅い香車の歩みに間に合うか、わくわく楽しい手順。手順を誘導する条件がしっかりしていて解き易い長編(それとも中編?)でした。本問は一直線でしたが、さて、返しの手順はどうなりますか、楽しみです」

■続編の98-3でも“ある駒”の軌跡の推理を楽しんでください。

-----  
正解：16名

飯山修さん NNNさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 加賀孝志さん 金少桂さん 諏訪冬葉さん たくぼんさん DD++さん テイエムガンバさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamonさん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

-----  
総評

小木敏弘 「97-1のヒントは新鮮でした」

■棋譜の積を条件にすると、斬新なアイデアでした。

渡辺 「今回は、手数順と難易度順がほぼ逆？解図は97-1、検討は97-2が最難問か」

■担当は解図も検討も 97-1 が最難問と感じました。

波多野賢太郎 「今回の四つの年賀作は思う存分悩み、楽しむことができました。特に1番と3番はよくぞ考えたという条件な上に、かなり悩んだので印象に残りました」

飯山修 「今回も直前ヒントがなければ到底無理。100回記念が待ち遠しい」

小山邦明 「新年から面白い条件の作品で大変楽しめました」

■力作が集まりましたので、骨のある出題となりました。その分、解図できたときの爽快感を味わえたかと思えます。

占魚亭 「今回は1作解くのがやっとでした。本年もよろしくお祈りします」

加賀孝志 「2題のみ、明日からスペインへ。10日間、美術館巡り、今年もよろしくお祈りします」

ティエムガンバ 「2016年もよろしくお祈りします。本当は問題がすべて解けて好スタートを飾る予定でしたが……。第98回こそ全問正解を目標にします」

隅の老人B 「1月の20日、締め切りまで考えたが全題は解けず。まあ、B爺さんの実力からすれば、こんな処が妥当ですね。それやこれやで、締め切りぎりぎりの解答。遅まきながら、今年も宜しく」

■年始は易問で揃えたかったんですけど、結構難しい作品群になりました。1題でも2題でも解けた分だけ解答いただければ幸いです。

Pontamon 「新年の4題5問は解き応えのある作品ばかりでした。本年もよろしくお祈り申し上げます」

たくぼん 「長い作品のほうが好きなので今回は特に楽しめました。楽しめる長編またよろしくお祈りします」

DD++ 「今年は総じて手数長いですね。手がかりが多いので解きやすい問題ばかりなのは安心です」

■作者はほぼ例年とあまり変わっていないので、“今年は長いを出してやろう”とみなさんの波長が一致したのかも。さて、来年はどうでしょうか？

S. Kimura 「今回は難しくて、締め切り前日までかかって、ようやく全問解けました。お正月気分は既になくなりましたが、これから、第98回の問題に取り掛かります」

はなさかしろう 「出題されたての第98回を眺めながら、本解答が2016年の第一歩です。第98回は手数の長い難問があるようで、じっくり楽しみたいと思います」

■第98回の後半2題は手数が長いので上級としました。本格推理をお楽しみください。

-----  
推理将棋第97回出題全解答者： 22名

飯山修さん S. Kimuraさん NNNさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 加賀孝志さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダルマンさん 占魚亭さん たくぼんさん DD++さん ティエムガンバさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん Pontamonさん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

# リパブリカン詰の紹介 変寝夢

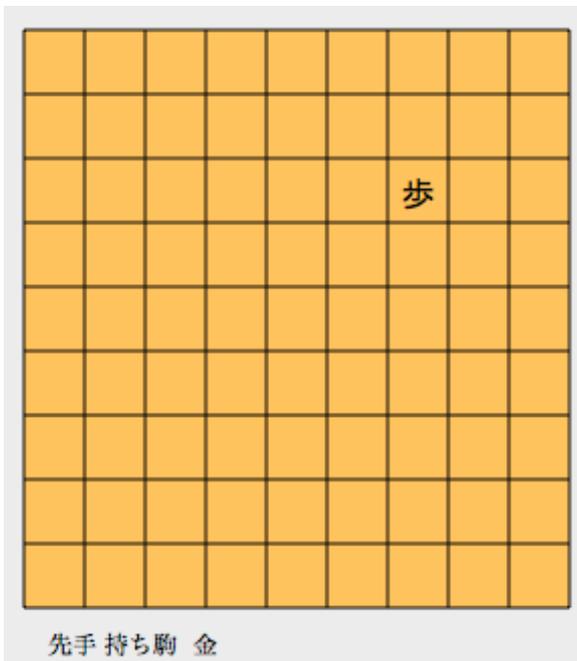
チェスの Republican Chess が面白かったので、将棋に移植してみました。  
リパブリカンとは「共和国」という意味らしいのですが、名付けられた理由はわかりません。

## ルールの説明

### 1. 詰み

先手の着手後、特定の位置に後手玉を置いたときに詰んでいれば協力系リパブリカン詰の詰みと見なす、これだけです。ただし打歩詰はやはり禁止です

それでは例題（1手詰）を一つ。



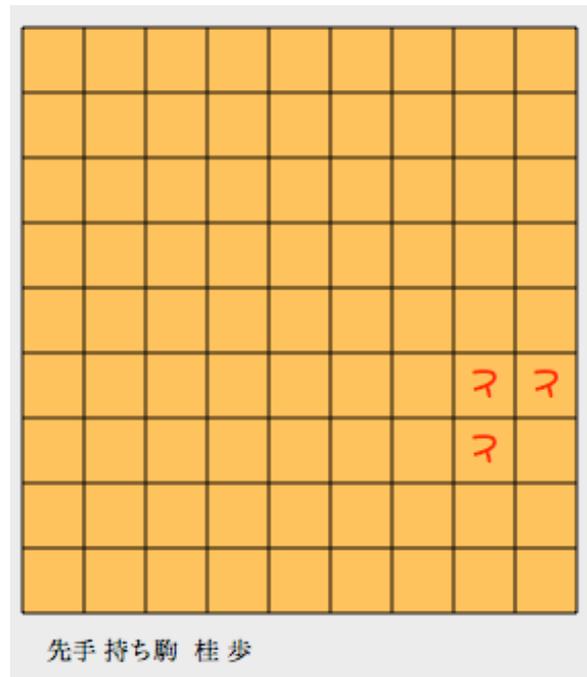
後手玉がありませんがリパブリカン詰ではこれが標準。打歩詰、二歩、行き所のない駒が発生しない着手ならば全ての指し手が可能です。

何も考えず 3 2 金と打ってみましょう。さてこれで詰んでいるのでしょうか。

そう、3 1 玉と置けば例の頭金の形ですね。

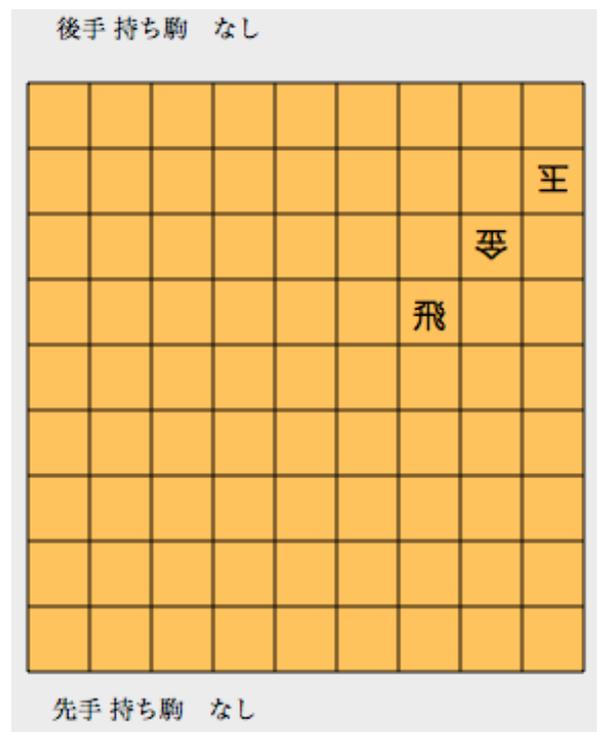
正解は 3 2 金（+ 3 1 玉）までの 1 手詰でした。

次の図ですが、協力詰 3 手です。持駒に金があれば 4 段目に桂を打って頭金なのですが。右下の配置をじっくり見て玉位置、詰め上がりを想像してみると・・・。



正解は 1 9 歩、2 8 角、2 9 桂（+ 1 7 玉）までの 3 手でした。手順前後すると打歩詰で不詰です。次に協力自玉詰の詰みです。

下図は協力自玉詰 4 手です。非連続王手ではないので後手玉に王手を掛けながら、後手の着手後、任意の位置に先手玉を置いたときに詰んでいれば自玉詰となります。



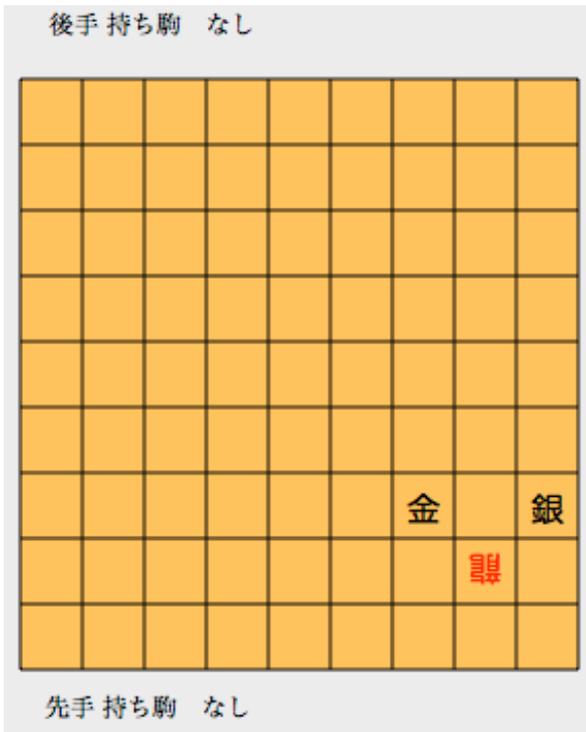
正解は1 4 飛、2 2 玉、1 2 飛生、3 3 玉 (+ 1 3 玉) までの4手です。

3手目1 2 飛成だと2 3 龍ができ不詰めです。また後手の持駒を「残り全部」にすると3 2 飛成2 2 銀(角)、2 1 龍、同玉(+ 1 3 玉)などいろいろ余詰です

協力系協力自玉系問わず、連続系もしくはステイルメイト等組み合わせても面白いと思います。

## 2. 可能局面かどうかは考慮しなくてもいい

下図(協力詰3手)は正解手順は2 7 金、1 8 龍、2 8 銀(+ 1 7 玉)までの3手です。金銀による両王手が狙いですが、この詰め上がりは通常の詰将棋ではあり得ない形です。そんなのあり?と思われるかもしれませんが、リパブリカン詰では全く問題ありません。むしろ最初はこういった通常ありえない詰め上がりを模索していくことになるのではないのでしょうか。



## 3. 最後に

協力系は相当詰みやすいので、連続系か協力自玉詰が実用的かなと思います。

想像力、ひらめきが必要とされるのでそちらが得意な人には向いているルールではないかと思っています。興味ある方はチャレンジしてみてください。

おわり

\*\*\*\*\*

## Fairy of the Forest #47課題発表

- 2016年02月20日：課題発表：(協力詰) 玉が動いて王手
- 2016年04月15日：投稿締切
- 2016年04月20日：出題
- 2016年05月15日：解答締切
- 2016年05月20日：結果発表

### ■ 課題発表

動く玉は、攻方でも受方でも構いません。受方玉が動いて王手なら、いわゆる逆王手ということになります。

おまえがやってみろ、と言われそうですが、ともあれご投稿をお待ちします。もちろん私も考えてみます。

(投稿先)  
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

## 解答募集締切一覧

---

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2016年3月15日(火)

#### 第79回 WFP 作品展

フェアリー作品 12題

#### 強欲な世界 PART 5

強欲協力詰 1題

### 2016年4月15日(金)

#### 第80回 WFP 作品展

フェアリー作品 12題

## 作品募集一覧

---

### フェアリー入門

課題：Q（クイーン）を含む作品、1,3,5手の最善詰、協力詰

募集締切：2016年3月10日

送り先：

(橘圭伍) keigotatibana@hotmail.com

詳細は、WFP 90号 P9 をご覧下さい

### フェアリー版くるくる展示室

- ・ 盤は9×9、駒は普通の将棋駒及び駒数内（フェアリー駒はとりあえず不可）
- ・ 後手持駒制限 OK
- ・ ルールは何でも OK（協力詰、かしこ詰、打歩詰、自玉詰系、ステイルメイトなど何でも OK）
- ・ 手数制限なし

### 第44回神無一族の氾濫

お題：逆王手を含む作品

送り先：神無七郎 (janacek789@ybb.ne.jp)

1人何作でも可

詳細は P11 をご覧下さい。

## 短評追加

先月解答発表したフェアリー版くるくる作品展5の2作に河童生さんから追加解答が届きましたので掲載します。図面、手順は先月号をご覧下さい。

### くるくる8 (290手詰)

一歩を使うまでの手順に妙味。最後はアックナク終わるが、これが「くるくる」。

### くるくる9 (424手詰)

1歩減らすのに22手も掛かる。王を追いかける手順は簡単ですが1歩を減らす手順は巧妙。

### 総評

「くるくる」なら僕でも解けるかと挑戦。先ずは最終図を想定して、持歩を減らす事に専念です。ワンサイクル、これを繰り返して、想定図に到達。「ヤッタゾ、嬉しいな」、です。

## あとがき

---

\*\*\*\*\*  
結果稿を読んだ感想、意見、返信等ありましたらメール下さい。改訂時スペースに追加掲載します。(25日前後まで) たくぼん  
\*\*\*\*\*

2015年 第92号

### Web Fairy Paradise

非売品

平成二十八年二月号

平成二十八年二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp